



日本赤十字社  
Japanese Red Cross Society

令和3年度

# 事業概要



 日本赤十字社 福島県支部  
Japanese Red Cross Society

人間を救うのは、人間だ。 Our world. Your move.

## 日本赤十字社の使命

わたしたちは、  
苦しんでいる人を救いたいという思いを結集し、  
いかなる状況下でも、  
人間のいのちと健康、尊厳を守ります。

## わたしたちの基本原則

わたしたちは、世界中の赤十字が共有する7つの基本原則にしたがって行動します。

- 人道：人間のいのちと健康、尊厳を守るため、苦痛の予防と軽減に努めます。
- 公平：いかなる差別もせず、最も助けが必要な人を優先します。
- 中立：すべての人の信頼を得て活動するため、いっさいの争いに加わりません。
- 独立：国や他の救助機関の人道活動に協力しますが、赤十字としての自主性を保ちます。
- 奉仕：利益を求めず、人を救うため、自発的に行動します。
- 単一：国内で唯一の赤十字社として、すべての人に開かれた活動を進めます。
- 世界性：世界に広がる赤十字のネットワークを生かし、互いの力を合わせて行動します。

## わたしたちの決意

わたしたちは、赤十字運動の担い手として、  
人道の実現のために、  
利己心と闘い、無関心に陥ることなく、  
人の痛みや苦しみに目を向け、  
常に想像力をもって行動します。

# はじめに

赤十字事業の推進につきましては、平素から社員の皆様をはじめ、多くの県民の皆様からご理解とご支援を賜り心より感謝申し上げます。

さて、本年2月のロシア軍による侵攻に端を発したウクライナ人道危機に対し、国際赤十字はいち早く対応にあたり、日本赤十字社もその一員として救援金を募集し、赤十字国際委員会と国際赤十字赤新月社連盟へ拠出したしました。この救援金は、戦闘地域での人道活動や避難者支援活動に活用されており、福島県内においても、この人道危機に対しては、県内各地区・分区をはじめ、有功会、奉仕団等関係者が、それぞれの立場から可能な支援に取り組んでおります。

また、国内外を問わず自然災害が頻発している状況において、令和3年度も前年に続き、福島県沖を震源とする震度6強という大きな地震が発生しました。赤十字救護班の活動には至りませんでした。福島県支部では県DMAT調整本部への職員派遣や避難所への救援物資の輸送・配布を行ったほか、義援金の受付を開始しました。

新型コロナウイルスの感染の収まりが依然として見通せない中、令和3年度においては、県対策本部への支援業務、福島赤十字病院での感染患者の受け入れや、万全な感染対策を図りながらの献血者確保などを行ってまいりました。奉仕団による活動についても、各団において活動地域での感染状況を的確に見極めながら様々な活動を行いました。また、「赤十字ボランティアのつどい」についても、規模は縮小しましたが3年ぶりの開催が実現できました。そのほか、救急法講習会も接触を避けた内容に限定し、青少年赤十字活動ではオンラインをうまく取り入れながら、以前にも増して工夫を凝らした活動や取り組みが行われました。

これら当支部事業は、県民の皆様からお寄せいただく活動資金（社資）を財源に行われております。令和3年度におきましても、厳しい社会・経済状況の中、県内各地区・分区をはじめ、有功会、奉仕団等赤十字関係者のご努力とご支援、県民や法人の皆様のご理解により、なんとか目標額に達することができ、これにより、計画していた事業実施が実現できました。改めて関係の皆様へ心から感謝を申し上げます。

引き続き、福島赤十字病院においては、県民のいのちと健康を守るため、救急医療、地域医療、災害医療の中核として、より質の高い医療の提供に努めるとともに、福島県赤十字血液センターにおいては、若年層への積極的な献血推進、医療ニーズに即した献血の推進・血液の安定供給に努めてまいります。

当支部では、今後とも赤十字の「人道・博愛」の精神に基づき、県民福祉の向上に貢献できる各種事業を推進してまいりますので、皆様の変わらぬご理解とご協力をお願い申し上げます。

令和4年9月

日本赤十字社福島県支部

# 目次

<b>1 災害救護</b> .....	1
1 災害救護 .....	1
2 救護員の登録 .....	2
3 救護訓練及び研修 .....	4
4 災害弔慰金の贈呈 .....	5
5 救援物資の配分 .....	5
6 災害義援金（国内）受付状況 .....	5
7 赤十字防災ボランティアの養成 .....	5
8 救護資材 .....	6
<b>2 救護看護師の養成</b> .....	8
1 奨学金貸与 .....	8
2 日本赤十字秋田看護大学 赤十字特別推薦 .....	8
<b>3 救急法・健康生活支援講習等の普及</b> .....	9
1 講習会の実施状況 .....	9
2 講習会の開催（合計） .....	11
3 講習会受講者内訳 .....	11
4 青少年赤十字（JRC）加盟校を対象とした救急法等講習会 .....	11
5 防災セミナー .....	12
6 行事イベント（救急法等）健康まつり等への協力 .....	12
7 県との連携事業「家族で学ぶ防災セミナー」の開催 .....	12
8 会議・研修会 .....	13
9 救急法・水上安全法・幼児安全法・健康生活支援講習指導員数 .....	13
10 救急法等講師名簿 .....	13
<b>4 赤十字奉仕団</b> .....	14
1 結成状況 .....	14
2 福島県支部委員会 .....	14
3 方部赤十字奉仕団連絡協議会 .....	15
4 赤十字奉仕団指導講師 .....	15
5 会議・研修会 .....	15
6 協力 .....	15
7 赤十字奉仕団研修会（講習会を除く） .....	16
8 令和3年度赤十字ボランティアのつどい（第10回） .....	16
9 資料発行 .....	16
10 令和3年度赤十字奉仕団と団員数現況 .....	17

<b>5</b>	<b>青少年赤十字（JRC）の育成</b>	<b>18</b>
1	加盟学校数とメンバー数	18
2	青少年赤十字地区指導者協議会別加盟校数・メンバー数	18
3	青少年赤十字研究推進校の指定	20
4	令和3年度青少年赤十字福島県指導者協議会役員	20
5	令和3年度各地区指導者協議会長	21
6	会議・研修会	21
7	県内トレーニングセンターの開催	22
8	指導者研修会・講習会等の開催	22
9	福島県青少年赤十字賛助奉仕団	23
10	青少年赤十字防災教育プログラムの普及	23
11	青少年赤十字 詩・100文字提案作品募集	24
12	青少年赤十字国際交流事業	25
<b>6</b>	<b>社会福祉活動</b>	<b>26</b>
1	高齢者福祉対策事業	26
2	保健衛生事業	26
3	地域高齢者生活支援活動	26
4	会議・研修会	26
<b>7</b>	<b>国際活動</b>	<b>27</b>
1	第1ブロック支部による国際活動への参加	27
2	救済金受付状況（福島県支部取扱分）	27
3	NHK 海外たすけあいキャンペーン（12月1日～25日）	27
4	安否調査	27
<b>8</b>	<b>広報資料</b>	<b>28</b>
1	日赤本社刊行物の配布	28
2	支部発行物の作成配布	28
3	ホームページ等の開設	28
4	新聞・テレビ・ラジオ広報	29
5	「ACTION！防災・減災キャンペーン」	29
<b>9</b>	<b>医療事業</b>	<b>30</b>
1	医療施設	30
2	診療科	30
3	病床数と職員数	30
4	患者数	30
5	紹介患者数	31
6	救急車両による搬入患者数	31

7	医療機器の整備（令和3年度分 主なもの）	31
8	訪問看護ステーションの運営	31
9	各種教室及び相談	32
<b>10</b>	<b>血液事業</b>	<b>33</b>
1	献血状況	33
2	供給状況	33
3	推進会議等の開催	34
4	献血思想の普及啓発・行事	34
5	骨髄ドナーの登録者受入及び登録状況	35
6	日本赤十字社有功章等贈与規則に基づく表彰	35
<b>11</b>	<b>評議員会</b>	<b>36</b>
<b>12</b>	<b>業務監理執行及び会計の監査</b>	<b>36</b>
<b>13</b>	<b>赤十字社員増強運動</b>	<b>37</b>
1	赤十字社員増強運動の推進と成果	37
2	表彰	39
3	優良地区・分区の表彰	42
4	地区有功会の結成状況	42
5	日本赤十字社福島県支部有功会連合会の会議等	43
6	組織振興課関係会議・研修会等	43
<b>14</b>	<b>会計報告</b>	<b>44</b>
1	令和3年度一般会計歳入歳出決算報告	44
2	令和3年度医療施設特別会計歳入歳出決算報告	44
<b>15</b>	<b>日本赤十字社福島県支部役員名簿</b>	<b>45</b>
<b>資料編</b>		<b>46</b>
	令和3年度日本赤十字社福島県支部現勢	46

# 1

## 災害救護

日本赤十字社の災害救護活動は、赤十字としての本来の使命に根ざした重要な活動であり、国際的にはジュネーブ諸条約や赤十字国際会議の決議に基づき、国内では日本赤十字社法及び同定款に基づき行われている。

また、災害救助法において国及び都道府県の救助活動に協力する義務が規定され、その具体的内容については「内閣府（防災担当）との協定」により取り決めがなされている。さらに、災害対策基本法により「指定公共機関」として位置づけられている。

これらを踏まえ、日本赤十字社は救護規則、防災業務計画等を定め、医療救護、救援物資の備蓄及び配分、血液製剤の供給、義援金の受付及び配分、その他応急対応に必要な業務のほか、復旧・復興、防災・減災に関する業務を行っている。

令和3年度は、令和4年3月福島県沖地震災害や新型コロナウイルス感染症への対応のほか、災害に備え、救護員の確保や訓練の実施、救護資機材の整備等、救護体制の充実強化に努めた。

### 1 災害救護

#### ア 令和4年3月福島県沖地震

令和4年3月16日午後11時36分に福島県沖を震源とする最大震度6強の地震が発生し、福島県内に甚大な被害をもたらした。当支部では災害対策本部を設置し、この災害に対し下記のとおり対応した。

活動内容	月日	場所	職員	備考
①職員派遣	連絡調整員	3月17～19日・22日	福島県災害対策本部	支部1 情報収集ほか
	DMAT活動	3月17・18・20日	福島県 DMAT調整本部	支部1 病院2 本部活動
②救援物資の配付	3月22日	相馬市	支部2	安眠セット90
③義援金受付	3月23日～6月30日			



発災直後から情報を収集



避難所への救援物資の配布

#### イ 福島県新型コロナウイルス感染症対策本部への支援

福島県新型コロナウイルス感染症対策本部からの要請により、令和2年度から引き続き職員を派遣し、調整本部（県庁）や保健所、クラスターが発生した医療機関で福島県感染症支援対策チームの一員として支援業務を実施した。なお、人員の派遣については、令和3年3月1日、



# 1 災害救護

福島県と「福島県感染対策支援チームの設置に関する協定」を締結した。

支部職員2名 23日間（令和3年5月3日～令和4年3月4日）

病院職員1名 14日間（令和3年4月26日～令和4年3月7日）

## ウ 「東京2020オリンピック競技大会（福島県会場）」へのDMAT 隊員派遣協力

支部1名（7月23日・29日の予備日に備えての派遣協力）

## 2 救護員の登録

災害に備えて救護班8班を常備し、毎年度更新登録している。（令和4年3月31日現在）

### ア 救護員の登録

	医師	看護師長	看護師	主事	助産師	薬剤師	災対本部委員	血液供給委員	合計
日本赤十字社福島県支部				4			7		11
福島赤十字病院	37	15	95	65	4	17	17		250
福島県赤十字血液センター			1	2			12	25	40
合計	37	15	96	71	4	17	36	25	301

### イ 令和3年度常備救護班編成表

	第1救護班	第2救護班	第3救護班	第4救護班
医師	菅野有紀子	浅間 宏之	阪本 貴之	大須賀文彦
看護師長	武井 明美	武田 里美	安達 明美	成澤 裕美
看護師	三浦 愛	國分 朋子	成尾ありさ	柳田 美穂
	渡邊 義文	斎藤 駿	山口 広夢	三浦 将克
主事	菅野 正幸	池田 久光	菊田 基晴	山名慎一郎
	幕田 高平	佐藤 勝行	藤橋 伸弘	村上 風太
	第5救護班	第6救護班	第7救護班	第8救護班
医師	井上 卓哉	佐藤 法義	大原 美希	多田 靖宏
看護師長	菅野いずみ	泉 弘子	鈴木 牧子	奈良輪弘美
看護師	清和 彩子	佐藤 裕子	萩原 暁美	本田 裕子
	野坂 雄史	武田 良平	長沢 恵	田島 一樹
主事	金原 昭世	奈良輪大輔	渡辺 源貴	佐藤 隆昭
	三浦 義喜	明田 充弘	三浦 友輔	小河原貴之

薬剤師	市橋 淳	緑上 淳一	渡部 寿康	川村 早苗	佐藤 南	井上可奈子
	二瓶 瑤子	酒井 亮	菊池 洋平	安齋 英里	古賀 彩織	大竹麻衣子
	小野優紀恵	武藤 芳和	佐藤 綾香	黒田 彩佳	矢葺 優佳	猪股 育美

支部 連絡調整員	石田 政幸	久保 芳宏	松本 琢也	出口 智美	野崎 謙司	相澤真理子
	徳井 優舞					

こころのケア 指導者	岩崎 睦子（支部）	高根 晴美（病院）	國分 花子（病院）	成澤 裕美（病院）
	武田 玲子（支部）	菅野 直樹（病院）	武田 里美（病院）	柳田 美穂（病院）
	佐藤 裕子（病院）			



## ウ 日本 DMAT 登録者

医 師	渡部 洋一 (統括 DMAT)	市川 剛	遠藤 豪一	渡部 研一	中村耕一郎	
看 護 師	奈良輪弘美 梅宮 誠	泉 弘子 吉野公弥子	原田 瑞穂 武田 良平	渡邊あゆみ 荒木 美和	鈴木 安英 鈴木 直人	萩原 暁美 田島 一樹
業務調整員	渡部 寿康 野崎 謙司	久保 芳宏 松本 琢也	橋本 健一	野田 誠	野地 幸次 葛岡 大輔	

## エ 福島県 DMAT 登録者

看 護 師	朝倉 恵実	山口 広夢	北村 慶
業務調整員	酒井 亮	山名慎一郎	佐藤 隆昭 渡辺 源貴

## オ 日赤災害医療コーディネーターチーム

	氏 名	任 命 職		氏 名	任 命 職
医 師	渡部 洋一	災害医療コーディネーター	医 師	遠藤 豪一	災害医療コーディネーター
医 師	渡部 研一	災害医療コーディネーター	医 師	市川 剛	災害医療コーディネーター
医 師	中村耕一郎	災害医療コーディネーター	看 護 師	安達 明美	コーディネートスタッフ
看 護 師	渡邊あゆみ	コーディネートスタッフ	看 護 師	奈良輪弘美	コーディネートスタッフ
看 護 師	鈴木 安英	コーディネートスタッフ	看 護 師	泉 弘子	コーディネートスタッフ
看 護 師	武田 里美	コーディネートスタッフ	薬 剤 師	渡部 寿康	コーディネートスタッフ
事務職員	久保 芳宏	コーディネートスタッフ	事務職員	野田 誠	コーディネートスタッフ
事務職員	野地 幸次	コーディネートスタッフ	事務職員	松本 琢也	コーディネートスタッフ
事務職員	野崎 謙司	コーディネートスタッフ	事務職員	葛岡 大輔	コーディネートスタッフ

## カ 福島県災害医療コーディネーター (令和3年4月1日～令和5年3月31日)

渡部 洋一 久保 芳宏

## キ 日赤原子力災害医療アドバイザー

中村耕一郎 海藤 隆紀

## ク 原子力災害時医療中核人材研修修了者

医 師	中村耕一郎					
看 護 師	成澤 裕美 柳田 美穂	小林 洋子	岩崎 睦子	鈴木 牧子	黒沢真由美	清和 彩子
診療放射線技師	海藤 隆紀	玉根 勇樹	明田 充弘			
事 務 職	葛岡 大輔					

### 3 救護訓練及び研修

#### ア 災害救護訓練

名 称	日 程	会 場	参加者 (人)
①福島市総合防災訓練	5月15日(土)	福島市	訓練規模縮小により不参加
②日赤福島県支部災害救護訓練	7月10日(土)	福島県支部	病院35 血セ7 支部7 計49
③福島県原子力防災通信連絡訓練	7月15日(木) 10月28日(木) 11月24日(水)		支部各1
④福島県総合防災訓練	10月3日(日)	本宮市	中止
⑤日本赤十字社第1ブロック支部 合同災害救護訓練	10月8日(金) 9日(土)	宮城県石巻市	中止
⑥福島県国民保護共同訓練	10月25日(月)	会津若松市	中止
⑦大規模地震時医療活動訓練	10月29日(金) 30日(土)	福島市ほか	病院6 支部3
⑧日本赤十字社第2ブロック支部 総合訓練	11月20日(土)	栃木県宇都宮市	病院6 支部3
⑨福島県原子力防災訓練(緊急 時連絡通報訓練)	11月24日(水)		支部1
⑩東北ブロック内血液センター 合同災害対応訓練	12月15日(水)	血液センター	血液センター
⑪日赤福島県支部救護班要員主 事対象訓練	令和4年2月23日(水)	赤十字病院	中止
⑫福島赤十字病院内災害救護訓練	3月8日(火)	赤十字病院	全職員
⑬福島 DMAT 衛星電話通信訓練	3月11日(金)		支部1 病院1



日赤福島県支部災害救護訓練



日本赤十字社第2ブロック支部総合訓練

#### イ 研修会・会議

名 称	日 程	会 場	参加者 (人)
①救護員看護師養成研修	5月~12月	赤十字病院	病院
②原子力災害医療基礎研修	5月26日(水)	Web 研修	病院2
③第1ブロック支部事業推進課長会議	6月18日(金)	Web 会議	支部1
④原子力災害医療基礎研修	7月3日(土)	赤十字病院	病院8 支部1
⑤原子力災害医療中核人材研修	8月23日(月)~25日(水)	県立医大	病院1
⑥東北ブロック DMAT 技能維持研修	9月2日(木)	Web 研修	病院3
⑦防災教育主任指導者研修	9月10日(金)	Web 研修	支部2
⑧防災教育指導者養成研修	9月28日(火) 29日(水)	Web 研修	支部1
⑨第1回原子力災害医療アドバイザー会議	10月6日(水)	Web 会議	病院2



名 称	日 程	会 場	参加者 (人)
⑩日本赤十字社第1ブロック日赤災害医療コーディネーター連絡会	10月8日(金)	Web 会議	支部 1 病院 1
⑪東北ブロック DMAT 技能維持研修	11月8日(月)	Web 研修	病院2 支部 1 (講師)
⑫福島県立総合衛生学院災害救護実習受入	11月10日(水)	福島県支部	支部2 血セ2 学生8 教員2
⑬こころのケア指導者養成研修会	11月29日(月)~12月1日(水)	Web 研修	病院 1
⑭第2回原子力災害医療アドバイザー会議	12月8日(水)	Web 会議	病院3 支部 1
⑮原子力災害対応研修作業部会	12月8日(水)	Web 会議	病院3 支部 1
⑯原子力災害医療派遣チーム研修	12月12日(日)	赤十字病院	病院 1 支部 1
⑰防災支援奉仕団連絡協議会総会	12月26日(日)	Web 会議	支部2 奉仕団 7
⑱原子力災害対応研修作業部会	令和4年1月20日(木)	Web 会議	病院3 支部 1
⑲東北ブロック DMAT 技能維持研修、統括 DMAT 登録者技能維持・ロジスティクス研修	1月23日(日)、24日(月)	宮城県仙台市	病院2 支部 1 (講師)
⑳こころのケア指導者養成研修会	2月11日(金)~13日(日)	Web 研修	病院 1
㉑原子力災害対応基礎研修会	2月19日(土)、20日(日)	赤十字病院	延期
㉒日赤災害医療コーディネートフォローアップ研修会	3月13日(日)	Web 研修	病院5 支部 4
㉓第3回原子力災害医療アドバイザー会議	3月16日(水)	Web 会議	病院2 支部 1

#### 4 災害弔慰金の贈呈

火災並びに自然災害等による死亡者の遺族代表者に弔慰金10,000円を贈る。

	件 数	金 額
弔 慰 金	20件	200,000円

#### 5 救援物資の配分

「支部災害救援物資取扱要綱」に基づき、以下のとおり配布した。

		前年度繰越	本社等受入	購 入	戻入等	被害者への配分	他支部への払出	転用等	本年度末残数
支 部	バスタオル	2,301				198			2,103
	毛 布	6,003				210			5,793
	緊急セット	3,425			82	107			3,400
	安眠セット	592				90			502
	タオルケット	600							600

#### 6 災害義援金 (国内) 受付状況 ( ) 内は累計

(令和4年3月31日現在)

義 援 金 名	件 数	金 額
①平成30年7月豪雨災害義援金	8件 (563件)	54,721円 (62,136,720円)
②令和2年7月豪雨災害義援金	11件 (240件)	263,864円 (13,059,094円)
③令和3年2月福島県沖地震災害義援金	163件 (327件)	756,500円 ( 1,991,074円)
④令和3年島根県松江市大規模火災義援金	4件	21,332円
⑤令和3年7月大雨災害義援金	157件	3,149,474円
⑥令和3年台風第9号等大雨災害義援金	114件	457,066円
⑦令和3年8月大雨災害義援金	112件	1,249,843円
⑧令和3年長野県茅野市土石流災害義援金	92件	246,311円
⑨令和4年3月福島県沖地震災害義援金	41件	1,608,534円

※ 災害義援金は、被災都道府県に設置される災害義援金配分委員会を通じて被災者へ全額配分される。

## 7 赤十字防災ボランティアの養成

### ア 福島県支部奉仕団合同災害救護訓練

防災支援奉仕団と地域奉仕団と共に災害時に活動できるよう「福島県支部奉仕団合同災害救護訓練」を県内持ち回りで、毎年開催しているが、令和2年度に続き、令和3年度も新型コロナウイルス感染拡大防止のため中止とした。

### イ 登録者数

防災ボランティアリーダー 7名  
 防災ボランティア地区リーダー 145名

## 8 救護資材

### ア 県支部保有の主な救護資材

(令和4年3月31日)

資材名	支部	病院	地区区分
移動式炊飯器	8組		338組
移動式炊飯器(灯油式)	2組		
医療セット		2組	
携帯用医療セット	1個		
携帯用救護カバン	2個	3個	
医療資器材携行用カバン	16個		
ノート型パソコン	2台	3台	
モバイルプリンター	3台		
プロジェクター	3台		
折りたたみいす	10台		
診察台	2台		
トリアージシート	1組	1組	
担架	24台		73台
ヘッドランプ	31台	6台	
災害救援用ハンドビーム	2台		
ランタン(15W)	4台	6台	
ランタンスタンド	4台	1台	
投光器	3台		20台
移動発電機	9台		67台
モバイルバッテリー	2台		91台
天幕(3間×2間)	12張		7張
“(1.5間×2間)	4張		242張
エアータント(4m×5m)	2張	1張	
“(6m×6m)	2張		
ワンタッチテント(3m×6m)	5張		310張
ドラッシュテント(フレームテント)XB	1張		
ドラッシュテント(フレームテント)MX	1張		
折りたたみ寝台	39台	40台	136台
担架ベッド	2台		
患者用毛布	50枚	50枚	
自動式ポータブルトイレ	10台		

資材名	支部	病院	地区区分
携帯トイレ	3個		
トイレ用テント	11張		
ストーブ	4台		
救護所用冷暖房機器	2台		
救護員作業衣(夏用)	20着	50着	
“(冬用)	20着	50着	
ヘルメット	25個	35個	203個
雨具	98着	25着	
防寒衣	16着		
防寒服(上・下)	30着		
救護員用Tシャツ	60着	135着	
ダウンジャケット	25着	20着	
編上靴	52足	36足	
半長靴	9足	11足	
防じんゴーグル	12個	6個	
寝袋	25個		
キャンピングマット	27枚		
携行バッグ	20個	40個	
携行キャリーバッグ	16個	24個	
救護資材倉庫			203棟
ローラーコンベア(電動)	5台		
“(手動)	1台		
ハンドリフト	2台		
救急車	1台	2台	
医療派遣用自動車	1台	1台	
災害救援車	7台	1台	108台
普通自動車	1台		
折りたたみ自転車	1台		
4折テーブル	4台		
折りたたみリヤカー	1台		
超短波無線機(157MHZ)基地局	1局		

資材名	支部	病院	地区区分
地上移動局	15局	5局	
超短波無線機(415MHZ)基地局	1局		
地上移動局	17局	10局	
小電力トランシーバー	12台		
携帯電話・データ端末	8台		
衛星携帯電話	6台	5台	
// (可換型)	(3台)	(3台)	
// (車載)	(3台)	(2台)	
メガホン(拡声器)	8台		
携帯ラジオ	9台		
液晶テレビ	1台		
電子血圧計	1台		
医療セット置台	3台		
点滴スタンド	5台		
AED一式	4台		
AED(携帯用)一式	6台	1台	112台

資材名	支部	病院	地区区分
災害救護活動用ベスト			245着
DMAT装備一式		1式	
NBC災害対応除染セット一式	1式		
防護服セット	58組		
デジタル個人線量計	38個	20個	
空間線量率測定用サーベイメータ		1台	
身体汚染スクリーニング用GMサーベイメータ		1台	
救護用ヒップバッグ	5個	15個	
反射チョッキ	40着	20着	
担架置台	5組		
救命胴衣	6着		24着
防災ボランティア雨具	50着		
台車	1台	1台	
アコーディオンスクリーン	2台		
折畳式ホワイトボード	1台		

## イ 災害救護装備の充実

災害救援物資の輸送等のため各地区・分区に120万円を上限に赤十字救援車購入の経費の一部を補助した。また、赤十字施設における救護装備の整備、更新を行った。

### ◎地区区分災害救護装備

赤十字救援車配置(助成)	4台	①福島市飯野分区 ②伊達市梁川分区 ③本宮市地区 ④北塩原村分区
--------------	----	-------------------------------------

### ◎災害救護装備の整備

移動式炊飯器(灯油バーナー式)	2組
自動式ポータブルトイレ	10台
災害救援車の更新	1台
医師派遣車(福島赤十字病院)の更新	1台

# 2

## 救護看護師の養成

国際的な救護活動、高齢社会への適切な対応ができる優れた看護師を養成するため、赤十字理念を建学の精神としている日本赤十字看護大学等で学び、赤十字に対し深い理解と熱意をもつ学生に奨学金を貸与し、救護看護師を養成している。

### ① 奨学金貸与

(人)

学校名	1年	2年	3年	4年	計
日本赤十字秋田看護大学	3人	3人	2人	4人	12人
日本赤十字看護大学	—	—	—	1人	1人
日本赤十字北海道看護大学	—	—	1人	—	1人
合計	3人	3人	3人	5人	14人

※ 奨学金貸与額：年間60万円（月額5万円）を上限として貸与している。

### ② 日本赤十字秋田看護大学 赤十字特別推薦

日赤秋田看護大学に入学を希望し、福島赤十字病院に看護師として就職を希望する高校生を対象に選考会を行い、福島県支部長より推薦した。（令和4年4月入学）

赤十字特別推薦選考会 10月20日(水)

応募者 1人  
推薦者 1人  
合格者 1人



戴帽式



日本赤十字秋田看護大学



# 3

## 救急法・健康生活支援講習等の普及

日本赤十字社では、「苦しんでいる人を救いたいという思いを結集し、いかなる状況下でも、人間のいのちと健康、尊厳を守る」という使命に基づき、講習をとおして救急法等の普及に取り組んでいる。

当支部においても、「救急法」「水上安全法」「幼児安全法」「健康生活支援講習」の各講習を実施し、事故防止や人命を救う方法、健康で安全に暮らすための知識と技術の普及に努めている。

令和3年度においても、新型コロナウイルス感染症のまん延により、参加者の安全確保や感染拡大の防止のため、一部実技等の制限を設けた上で短期講習を中心に実施した。

### 1 講習会の実施状況

#### ア 救急法

日常生活における事故防止の知識と、思わぬ事故や急病の人を医師や救急隊に引き継ぐまでの応急手当などの知識と技術を普及している。

心肺蘇生、AED（自動体外式除細動器）の使い方、気道異物除去の方法を学ぶ救急法基礎講習（4時間）を実施した。



救急法

講習種別	実施回数(回)	受講者数(人)	修了者数(人)	養成者数(人)
救急法				
基礎講習 (4時間)	16	366	366	—
救急員養成講習 (12時間)	1	70	—	70
短期講習	120	2,990	—	—
計	137	3,426	366	70

#### イ 水上安全法

水と親しみ水の事故から人命を守るため、泳ぎの基本と自己保全、水の事故防止、溺れた人の救助、救命手当などの知識と技術を普及している。



水上安全法

講習種別	実施回数(回)	受講者数(人)	修了者数(人)	養成者数(人)
水上安全法				
救助員養成Ⅰ (14時間)	—	—	—	—
救助員養成Ⅱ (12時間)	—	—	—	—
短期講習	30	1,092	—	—
計	30	1,092	0	0



ウ 幼児安全法

幼児期に起こりやすい事故とその予防、万一事故が起きた場合の心肺蘇生法と AED の使い方、気道異物除去など救命手当及び応急手当の仕方、かかりやすい病気と看病の仕方などの知識と技術を普及している。

短期講習「災害時の乳幼児支援」においては、バンダナ、レジ袋を使用したきずの手当てを行った。

講習種別		実施回数(回)	受講者数(人)	修了者数(人)	養成者数(人)
幼児安全法	支援員養成講習(12時間)	—	—	—	—
	短期講習	31	463	—	—
	計	31	463	0	0



幼児安全法



認知症サポーター養成講座

エ 健康生活支援講習

誰もが迎える高齢期を、すこやかに迎えるために必要な健康増進の知識や、高齢者の支援、自立に向け役立つ介護技術を普及している。

「認知症サポーター養成講座」は、福島市と共同開催し地域のボランティア活動につながる事が期待される。

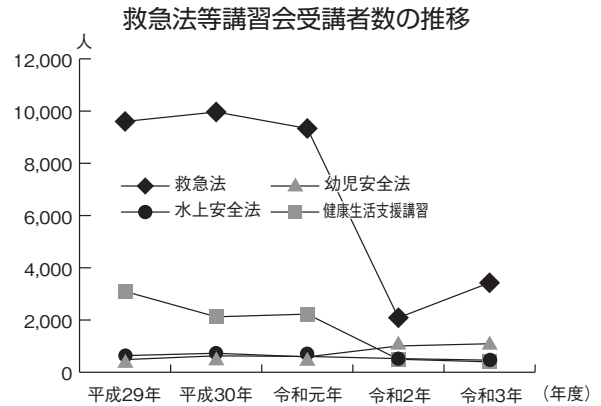
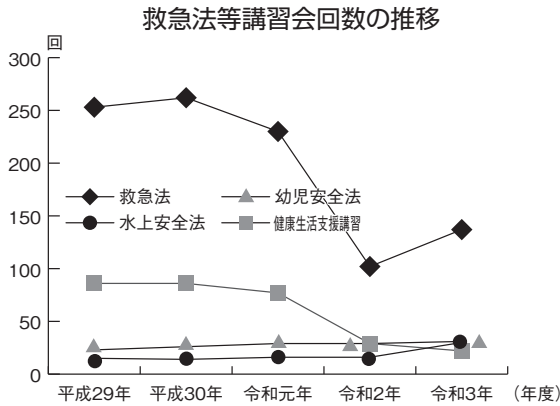
講習種別		実施回数(回)	受講者数(人)	修了者数(人)	養成者数(人)	
健康生活支援講習	支援員養成講習(12時間)	—	—	—	—	
	短期	災害時高齢者生活支援講習	3	21	—	—
		認知症サポーター養成講座	7	117	—	—
		地域で支える認知症	—	—	—	—
		その他	12	260	—	—
計		22	398	0	0	



## 2 講習会の開催（合計）

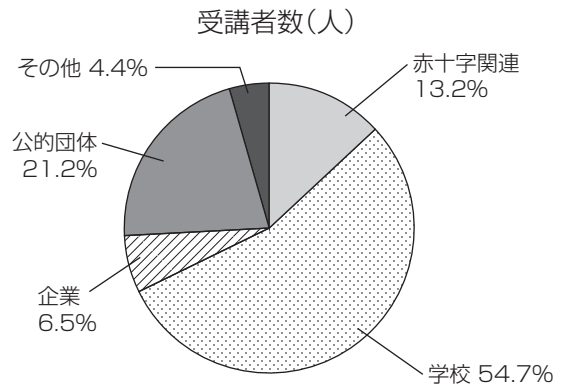
講習種別	実施回数(回)	受講者数(人)	修了者数(人)	養成者数(人)
救急法	137	3,426	366	70
水上安全法	30	1,092	0	0
幼児安全法	31	463	-	-
健康生活支援講習	22	398	-	-
計	220	5,379	366	70

※ 復興支援事業を含む。



## 3 講習会受講者内訳

	受講者数(人)
赤十字関連	708
町内会・自治会	0
学校	2,942
企業	351
公的団体	1,140
その他	238
計	5,379



## 4 青少年赤十字（JRC）加盟校を対象とした救急法等講習会

対象：小学校・中学校・高等学校・特別支援学校・指導者協議会

内容：心肺蘇生・AEDについて短時間で学ぶ救急法短期講習から水の事故から身を守るための着衣泳等を開催した。

	開催数(回)	受講者(人)
小学校	57	1,839
中学校	9	400
高等学校	3	69
特別支援学校	1	66
指導者協議会	1	29
合計	71	2,403



JRC 加盟校を対象とした救急法等講習会

## 5 防災セミナー

本社における「赤十字防災教育プログラム」の普及推進方針を受け、「防災セミナー」として地域防災に役立つ知識や技術の普及を行った。

### 防災セミナー開催状況

内 容	回 数(回)	受講数(人)
災害への備え（講演）	6	172
災害エスノグラフィー	1	7
災害図上訓練（DIG）	1	7
避難所運営ゲーム（HUG）	3	111
応急手当	0	0
非常食作り	8	184
災害時シミュレーション	11	471
合 計	30	952

※ 赤十字防災教育プログラムでの実施は除く。

## 6 行事イベント（救急法等）健康まつり等への協力

新型コロナウイルス感染症の影響により、開催がなかった。

## 7 県との連携事業「家族で学ぶ防災セミナー」の開催

会 場	開 催 日	参加親子 ※( )は総数
福 島 市 県庁危機管理センター	7月10日(土)	14組 (31名)
いわき市 いわき産業創造館	7月18日(日)	25組 (56名)
郡 山 市 ビッグパレットふくしま	11月6日(土)	16組 (42名)
南相馬市 原町区福社会館	11月13日(土)	7組 (16名)
福 島 市 県庁危機管理センター	11月21日(日)	17組 (39名)
会津若松市 会津アピオ	11月23日(火)	19組 (47名)
いわき市 いわき産業創造館	11月28日(日)	22組 (49名)
郡 山 市 ビッグパレットふくしま	12月4日(土)	18組 (45名)
福 島 市 県庁危機管理センター	12月11日(土)	16組 (37名)
合 計	9回	154組 (362名)



## 8 会議・研修会

研修会名	期 日	場 所	参加者(人)
①第1回赤十字講習推進委員会	5月18日(火)	Web 会議	支部1
②健康生活支援講習講師研究会	6月9日(水)	Web 会議	支部1
③講習担当課長会議	7月2日(金)	Web 会議	支部2
④水上安全法講師養成講習会	10月4日(月)～6日(水)	埼玉県	支部1 (講師)
⑤水上安全法講師研究会	10月20日(水)	福島県支部	Web 会議 支部1
⑥健康生活支援講習講師養成講習会	11月15日(月)～17日(水)	埼玉県支部	支部2 (講師1)
⑦救急法講師養成講習会	12月1日(水)～3日(金)	神奈川県支部	支部1
⑧救急法等講習再開等に関する打合	12月6日(月)	Web 会議	Web 会議 支部1
⑨水上安全法講師研修会	12月16日(木)	本社	支部2
⑩救急法講師研修会	令和4年1月18日(火)、19日(水)	Web 研修	支部5
⑪幼児安全法講師研修会	2月8日(火)、9日(水)	Web 研修	支部2
⑫健康生活支援講習講師研修会	2月9日(水)、10日(木)	Web 研修	支部2
⑬第2回赤十字講習推進委員会	2月17日(木)	Web 会議	支部1
⑭救急法等指導員伝達研修会	2月24日(木)、26日(土)、 27日(日)、3月2日(水)	福島県支部	延期
⑮健康生活支援講習指導員伝達研修会	3月18日(金)	福島県支部	中止

## 9 救急法・水上安全法・幼児安全法・健康生活支援講習指導員数

(令和4年3月31日現在)

講習会	ボランティア(人)			職 員(人)			合 計(人)		
	男	女	計	男	女	計	男	女	計
救 急 法	50	35	85	12	9	21	62	44	106
水 上 安 全 法	12	2	14	2	0	2	14	2	16
幼 児 安 全 法	16	13	29	6	5	11	22	18	40
健康生活支援講習	2	12	14	0	12	12	2	24	26

## 10 救急法等講師名簿

各講習会の指導員を養成する指導員養成講習の指導者となる。

(令和4年3月31日現在)

講習会	氏 名			
救 急 法	武田 玲子	久保 芳宏	石田 政幸	野崎 謙司
水 上 安 全 法	久保 芳宏	野崎 謙司		
幼 児 安 全 法	武田 玲子	車田 真美		
健康生活支援講習	武田 玲子	車田 真美	岩崎 睦子	

# 4 赤十字奉仕団

赤十字奉仕団は、明るく住みよい地域社会を築きあげていくために結成された地域奉仕団、青年や学生の若い力を社会のために役立てようと結成された青年奉仕団、特技を活かして社会に奉仕する特殊奉仕団が、共通の理念にたってそれぞれの持ち味を活かした奉仕活動を実践している。

長引くコロナ禍によりボランティア活動が大幅に自粛されたが、感染防止対策を徹底しそれぞれ地域のニーズに応じた様々な社会福祉活動を行った。また、災害時には住民の立場になり奉仕活動を行うため、日頃から訓練を行って災害に備えている。



ワクチン接種会場のボランティア（三春町赤十字奉仕団）



震災後休団していた富岡町赤十字奉仕団が10年ぶりに再開

## 1 結成状況

（令和4年3月31日現在）

奉仕団種別	団数	構成		
		男(名)	女(名)	計(名)
地域赤十字奉仕団	106	991	7,808	8,799
青年赤十字奉仕団	4	49	92	141
特殊赤十字奉仕団	34	1,010	218	1,228
計	144	2,050	8,118	10,168

## 2 福島県支部委員会

赤十字奉仕団福島県支部委員会は、方部赤十字奉仕団連絡協議会会長と特殊奉仕団から県賛助奉仕団委員長、県防災支援連絡協議会会長で構成し、福島県支部管内の各奉仕団の活動に関し情報交換を行うとともに、活動の推進に向けた協議及び連絡調整を行っている。

### 福島県支部委員会役員

役員	氏名	所属
委員長	佐原和佳子	喜多方市赤十字奉仕団委員長
副委員長	林美枝子	須賀川市赤十字奉仕団委員長
副委員長	松田 貞夫	福島県青少年赤十字賛助奉仕団委員長

### 3 方部赤十字奉仕団連絡協議会

方部名	令和3年度 方部会長奉仕団名	方部名	令和3年度 方部会長奉仕団名	方部名	令和3年度 方部会長奉仕団名
福島	川俣町赤十字奉仕団	須賀川・岩瀬	須賀川市赤十字奉仕団	両沼	柳津町赤十字奉仕団
伊達	伊達赤十字奉仕団	白河市	白河赤十字奉仕団	南会津	田島赤十字奉仕団
安達	二本松赤十字奉仕団	西白河	矢吹町赤十字奉仕団	いわき	平方部赤十字奉仕団
郡山	郡山赤十字奉仕団	東白川	棚倉町赤十字奉仕団	相馬	原町赤十字奉仕団(暫定)
田村	小野町赤十字奉仕団	会津若松	会津若松市赤十字奉仕団	双葉	休止
田村市	大越町赤十字奉仕団	北会津	北会津赤十字奉仕団	県賛助奉仕団	福島県委員長
石川	平田村赤十字奉仕団	喜多方・耶麻	喜多市赤十字奉仕団	県防災支援連協	小高アマ無線赤十字奉仕団

### 4 赤十字奉仕団指導講師

(8名) (令和3年4月1日現在)

福島市	藤田 伸朔	会津若松市	栗城 美保
福島市	松田 貞夫	南相馬市	鈴木 進一
福島市	土屋 悦男	いわき市	飯間香保子
郡山市	安田 悠子		
アドバイザー(1名)		郡山市	今泉 春雄

### 5 会議・研修会

名 称	月 日	会 場	参加者(人)
①奉仕団委員長会議	5月25日(火)		中止
②奉仕団中央委員会	5月28日(金)	Web 会議	支部 1
③県賛助奉仕団総会	5月28日(金)		文書審議
④第1ブロック青年赤十字奉仕団連絡協議会	6月5日(土)	Web 会議	青奉 1
⑤奉仕団担当者研修会	6月10日(木)	Web 研修	支部 1
⑥全国賛助奉仕団協議会役員会・総会	7月17日(土)	Web 会議	全国会長 1・県委員長 1・支部 1
⑦第1ブロック奉仕団委員長会議	9月27日(月)		文書審議
⑧第1ブロック賛助奉仕団協議会	10月22日(金)	Web 会議	県賛助 2・支部 1
⑨全国ボランティア・リーダー研修会	10月28日(木)・29日(金)	Web 研修	奉仕団 1・支部 3
⑩奉仕団指導講師会議	11月30日(火)	福島県支部	指導講師 8・支部 4
⑪赤十字奉仕団中央委員会常任委員会	令和4年1月17日(月)	Web 会議	県委員長 1・支部 1
⑫第1ブロック青年奉仕団オンライン交流会	3月6日(日)	Web 会議	青奉 2
⑬全国賛助奉仕団協議会役員会	3月8日(火)・9日(水)	本社	延期
⑭奉仕団方部連絡協議会会長会議	3月14日(月)	福島県支部	方部会長 16
⑮支部奉仕団指導講師研修会	3月19日(土)~21日(月)	本社	中止

### 6 協 力

赤十字新聞発送作業協力(県北賛助奉仕団、日赤福島ボランティア会)  
毎月2日間 延べ25日 273人(2月はコロナ感染拡大防止の為休止)



## 7 赤十字奉仕団研修会（講習会を除く）

赤十字奉仕団指導講師等の協力を得て、赤十字奉仕団の研修会を開催している。

赤十字奉仕団名	月 日	内 容	講師派遣人数(人)
葛尾村赤十字奉仕団	10月5日(火)	近年の災害の特色と災害への備え	支部職員 1
会津若松市防災ボランティア奉仕団	11月26日(金)	コロナ禍における赤十字活動	支部職員 1
伊達赤十字奉仕団	12月20日(月)	赤十字奉仕団とは	奉仕団指導講師 1

## 8 令和3年度赤十字ボランティアのつどい（第10回）

開 催 日	令和3年10月19日(火)
場 所	郡山市・ビッグパレットふくしま
参 加 者	赤十字奉仕団員、関係者 約200名（感染対策のため人数を絞って実施）
内 容	1 表彰 奉仕団功労表彰、奉仕団員等奉仕者功労表彰 地元紙2紙に受章者名簿を掲載 2 講演 「詩の中に生きている博愛の心」 フリーアナウンサー・ラジオパーソナリティ 宗方 和子 氏



井手副支部長から表彰伝達



講演

## 9 資料発行

東日本大震災から10年を振り返り、当時の教訓を今後に生かすため、下記資料を作成した。

資 料 名	赤十字奉仕団活動記録集 東日本大震災から10年を振り返って～あれから10年、これからの10年～
発 行	令和4年3月発行、1,200部
内 容	全県下の奉仕団員159名より、震災時の活動や当時の体験談を寄稿
配 布 先	執筆者、奉仕団委員長、地区・分区長、市町村長、社会福祉協議会長、各支部事務局長、支部委員会委員長、図書館等





# 10 令和3年度赤十字奉仕団と団員数現況

(令和4年3月末現在)

## 地域奉仕団

No	奉仕団名	男	女	計
1	飯野町	0	90	90
2	川俣町	0	230	230
3	平野(たんぽぽほうし団)	0	40	40
4	飯坂	0	88	88
5	湯野	0	60	60
6	福島希望	5	17	22
7	吉井田	0	7	7
8	北信(マロニエの会)	0	28	28
9	荒井	0	67	67
10	佐倉	0	42	42
11	伊達	4	28	32
12	保原町	3	221	224
13	梁川町	0	40	40
14	月舘町	0	195	195
15	霊山町	0	61	61
16	桑折町	0	40	40
17	国見町	500	1,500	2,000
18	大玉村	0	33	33
19	二本松市東和	0	85	85
20	二本松市	0	40	40
21	安達	0	41	41
22	二本松市岩代	0	30	30
23	本宮市本宮	3	76	79
24	本宮市白沢	1	56	57
25	郡山市	16	29	45
26	田村町	0	74	74
27	白和田町	1	39	40
28	富久山町	3	33	36
29	須賀川市	18	147	165
30	鏡石町	1	23	24
31	天栄村	6	23	29
32	三春町	0	42	42
33	小野町(すみれ会)	0	33	33
34	都路町	0	45	45
35	船引町	0	43	43
36	大越町	14	15	29
37	滝根町	0	33	33
38	常葉町	11	29	40
39	浅川町	2	23	25
40	玉川村	2	65	67
41	平田村	6	8	14
42	古殿町	2	31	33
43	石川町	4	24	28
44	白河	124	48	172
45	大信	2	61	63
46	白河市表郷	8	15	23
47	三神	0	60	60
48	矢吹町	0	54	54
49	中畑	0	43	43
50	泉崎村	0	98	98
51	西郷村	0	194	194
52	中島村	0	29	29
53	棚倉町	0	55	55

No	奉仕団名	男	女	計
54	矢祭町	0	40	40
55	塙町	3	164	167
56	鮫川村	5	48	53
57	会津若松市	55	535	590
58	西会津	0	41	41
59	山都町	19	38	57
60	喜多方市	0	50	50
61	高郷町	0	28	28
62	塩川町	7	24	31
63	熱塩加納町	28	42	70
64	北塩原村	20	42	62
65	会津坂下町	9	51	60
66	柳津町(ひまわり会)	2	50	52
67	湯川村	0	23	23
68	会津美里町本郷	19	29	48
69	会津美里町高田	1	46	47
70	新鶴地区	0	31	31
71	金山町	2	36	38
72	昭和村	0	26	26
73	三島町	0	31	31
74	北会津	0	35	35
75	猪苗代町	22	15	37
76	磐梯町	2	28	30
77	河東町	3	22	25
78	南会津町田島	6	169	175
79	只見町(ともしび会)	2	155	157
80	下郷町	0	48	48
81	檜枝岐村	0	21	21
82	南会津町南郷	1	0	1
83	南会津町舘岩	11	9	20
84	南会津町伊南	11	23	34
85	平方部	2	160	162
86	内郷方部	0	78	78
87	常磐方部	0	49	49
88	小名浜方部	0	148	148
89	勿来方部	0	130	130
90	いわき市四倉方部	1	120	121
91	いわき市遠野方部	0	130	130
92	好間地域	0	37	37
93	原町	2	40	42
94	鹿島	1	54	55
95	小高	2	21	23
96	相馬市	0	34	34
97	新地町	0	125	125
98	飯館村	2	15	17
99	大熊町	休止中		
100	広野町	6	26	32
101	川内村	0	161	161
102	浪江町	3	22	25
103	富岡町	7	6	13
104	双葉町	休止中		
105	檜葉町	休止中		
106	葛尾村	1	21	22
計①		991	7,808	8,799

## 青年奉仕団

No	奉仕団名	男	女	計
1	福島県立医科大学学生	14	72	86
2	福島青年	25	13	38
3	福島学院大学	6	7	13
4	日本大学工学部	4	0	4
計②		49	92	141

## 特殊奉仕団

No	奉仕団名	男	女	計
1	福島県赤十字安全	63	37	100
2	福島赤十字語学	2	0	2
3	いわき芸能	5	10	15
4	福島赤十字病院	3	11	14
5	日赤福島ボランティア会	26	20	46
6	会津若松市赤十字 防災ボランティア	7	26	33
7	福島県あん摩マッサージ 指圧・はり・きゅう	23	8	31
8	県北地区賛助	91	27	118
9	県中地区賛助	163	17	180
10	県南地区賛助	139	16	155
11	会津地区賛助	126	9	135
12	いわき地区賛助	29	6	35
13	相双地区賛助	117	7	124
計③		794	194	988

## 特殊奉仕団(アマ無線・防災支援奉仕団)

No	奉仕団名	男	女	計
1	福島アマ無線	18	3	21
2	会津アマ無線	8	0	8
3	表郷防災支援	9	1	10
4	矢吹アマ無線	6	0	6
5	下郷町アマ無線	17	0	17
6	白沢アマ無線(備鳥ハムクラブ)	9	1	10
7	安達防災支援	5	0	5
8	郡山アマ無線	9	1	10
9	広野町アマ無線	13	3	16
10	田村市大越アマ無線	3	0	3
11	勿来アマ無線防災支援	9	1	10
12	白河アマ無線	16	8	24
13	石川町アマ無線	14	0	14
14	大玉アマ無線	10	3	13
15	いわきアマ無線	2	1	3
16	二本松防災支援	11	0	11
17	小高アマ無線	8	0	8
18	飯館アマ無線	10	0	10
19	河東防災支援無線	19	1	20
20	岩代アマ無線	3	0	3
21	北会津防災支援	17	1	18
計④		216	24	240
合計①～④		2,050	8,118	10,168

# 5

## 青少年赤十字(JRC)の育成

青少年が赤十字の精神に基づき、「健康・安全」、「奉仕」、「国際理解・親善」の実践活動を通して、社会に貢献できる人間の育成を目指し、小・中・高等学校に組織され、学校教育の一環として活動を進めている。〔JRC：Junior Red Cross〕

### ① 加盟学校数とメンバー数

(令和3年9月1日現在)

	学校数(校)	メンバー数(名)	県内加盟率(%)
幼稚園	17	555	—
小学校	404	80,234	98.1
中学校	211	43,373	95.0
高等学校	33	3,179	30.6
特別支援学校	3	235	12.0
義務教育学校	6	1,232	100.0
計	674	128,808	87.2

※ 計の県内加盟率は幼稚園を除く



### ② 青少年赤十字地区指導者協議会別加盟校数・メンバー数

#### 【幼稚園】

地区名	園数	学級グループ数	男	女	計	指導者数
福島	11	23	193	144	337	34
田村	1	1	5	5	10	1
西白河	1	7	62	81	143	7
相馬	4	8	30	35	65	8
計	17	39	290	265	555	50

#### 【小学校】

地区名	学校数	学級グループ数	男	女	計	指導者数
福島	53	594	6,500	6,218	12,718	556
伊達	18	182	1,647	1,627	3,274	174
安達	25	228	2,225	2,085	4,310	218
郡山	52	703	8,018	7,566	15,584	692
岩瀬	21	215	2,352	2,199	4,551	204
石川	9	86	837	786	1,623	84
田村	18	158	1,365	1,364	2,729	142
西白河	28	278	2,739	2,653	5,392	275
東白川	8	76	769	729	1,498	79
会津若松・北会津	26	272	2,650	2,407	5,057	246
耶麻	20	146	1,199	1,172	2,371	139
両沼	14	90	755	684	1,439	85
南会津	14	82	443	435	878	86
相馬	24	234	2,116	2,013	4,129	232
双葉	11	51	191	184	375	58
いわき	63	702	7,317	6,989	14,306	650
計	404	4,097	41,123	39,111	80,234	3,920

## 【中学校】

地区名	学校数	学級グループ数	男	女	計	指導者数
福島	23	272	3,732	3,517	7,249	372
伊達	8	71	885	928	1,813	110
安達	11	92	1,282	1,183	2,465	161
郡山	26	295	3,781	3,766	7,547	418
岩瀬	12	114	1,300	1,228	2,528	169
石川	5	42	497	484	981	71
田村	9	60	741	725	1,466	113
西白河	14	123	1,494	1,424	2,918	198
東白川	4	35	383	381	764	53
会津若松・北会津	15	131	1,653	1,667	3,320	207
耶麻	10	61	557	445	1,002	88
両沼	9	47	513	490	1,003	88
南会津	7	32	295	269	564	64
相馬	11	97	1,175	1,108	2,283	173
双葉	8	22	84	84	168	50
いわき	39	355	3,783	3,519	7,302	537
計	211	1,849	22,155	21,218	43,373	2,872

## 【高等学校】

地区名	学校数	学級グループ数	男	女	計	指導者数
県北	8	46	65	95	160	17
県南	15	210	1,250	1,566	2,816	106
会津	3	20	21	24	45	4
いわき・相双	7	48	67	91	158	15
計	33	324	1,403	1,776	3,179	142

## 【特別支援教育諸学校】

地区名	学校数	学級グループ数	男	女	計	指導者数
県北	1	10	37	16	53	22
県南	1	33	118	57	175	68
いわき・相双	1	1	1	6	7	7
計	3	43	156	79	235	97

## 【義務教育学校】

地区名	学校数	学級グループ数	男	女	計	指導者数
郡山	2	25	231	193	424	28
岩瀬	1	10	136	138	274	14
会津若松・北会津	1	21	215	183	398	15
相馬	1	12	33	26	59	12
双葉	1	9	36	41	77	13
計	6	77	651	581	1,232	82

【学校別】

	学校数	学級グループ数	男	女	計	指導者数	県内の状況（令和3年度）				※1 全国加盟率(令和2年度)	
							学校加盟率(%)	児童生徒加入率(%)	※2 全学校数(校)	※2 全児童生徒数(人)	学校加盟率(%)	児童生徒加入率(%)
幼稚園	17	39	290	265	555	50						
小学校	404	4,097	41,123	39,111	80,234	3,920	98.1	94.0	412	85,322	36.2	31.2
中学校	211	1,849	22,155	21,218	43,373	2,872	95.0	94.0	22	46,148	34.6	30.1
高等学校	33	324	1403	1,776	3,179	142	30.6	7.0	108	45,648	37.6	10.5
義務教育学校	6	77	651	581	1,232	82	100.0	87.3	6	1,411		
特別支援教育諸学校	3	43	156	79	235	97	12.0	9.9	25	2,366	17.3	15.0
計	674	6,429	65,778	63,030	128,808	7,163	87.2	71.2	773	180,895	35.3	25.7

※1 日本赤十字社青少年赤十字ボランティア課 資料から抜粋

※2 福島県企画調整部統計課編「令和3年度学校基本調査速報」から抜粋

### 3 青少年赤十字研究推進校の指定

青少年赤十字活動の振興を目的に、加盟校の中から小・中各1校を研究推進校に指定しています。指定校は、3年間にわたり研究推進に取り組み、3年目に指導者研修会と学校公開で研究内容を発表する。

◎令和元～3年度

相馬市立飯豊小学校・向陽中学校

◎令和2～4年度

二本松市立二本松北小学校・二本松第一中学校



### 4 令和3年度青少年赤十字福島県指導者協議会役員

役職名	氏名	学校名
会長	横山 貴英	福島市立福島第一小学校
副会長	大杉 和規	白河市立表郷小学校
副会長	佐々木 徹	南相馬市立八沢小学校
副会長	遠藤 敦也	福島県立平工業高等学校
監事	高橋 哲也	天栄村立湯本小学校
監事	佐藤 康二	石川町立野木沢小学校
監事	渡部 朋史	福島県立猪苗代高等学校

## 5 令和3年度各地区指導者協議会長

地区名	氏名	学校名
福島	横山 貴英	福島市立福島第一小学校
伊達	岩井 智哉	桑折町立睦合小学校
安達	佐久間 仁	二本松市立塩沢小学校
郡山	千代田幸子	郡山市立多田野小学校
小中事務局校	中澤 修一	郡山市立穂積小学校
岩瀬	高橋 哲也	天栄村立湯本小学校
石川	佐藤 康二	石川町立野木沢小学校
田村	小松 信哉	田村市立美山小学校
西白河	大杉 和規	白河市立表郷小学校
東白川	永山 美雄	棚倉町立近津小学校
会津若松・北会津	武藤 盛男	猪苗代町立緑小学校

地区名	氏名	学校名
耶麻	鈴木 築	喜多方市立高郷小学校
両沼	岩崎 秀幸	湯川村立笈川小学校
南会津	相澤 周	南会津町立荒海小学校
相馬	佐々木 徹	南相馬市立八沢小学校
双葉	柳沼 敏文	川内村立川内小中学園
いわき	緑川 幸則	いわき市立永崎小学校
県高校	遠藤 敦也	福島県立平工業高等学校
県北	高橋 幸市	福島県立福島北高等学校
県南	黒川 佳子	福島県立あさか開成高等学校
会津	渡部 朋史	福島県立猪苗代高等学校
いわき・相双	柳沼 哲	福島県立平支援学校

## 6 会議・研修会

名称	月日	会場	参加者(人)
① JRC 担当者会議	4月9日(金)	福島県支部	Web 会議 支部
② JRC 県指導者協議会総会・研修会(第1回)	5月13日(木)	福島県支部	文書審議
③ 県高校指導者協議会総会	5月21日	各高校	Web 高校生メンバー・教諭
④ 県高等学校 JRC 連絡協議会春季総会	6月3日(木)	各高校	Web 開催 高校生メンバー・教諭
⑤ 県高校トレーニング・センター	7月10日(土)	各高校	Web 開催 高校生メンバー・教諭
⑥ 県指導者講習会	8月5日(木)～6日(金)	参加者所属校	Web 開催
⑦ 全国指導者協議会総会	6月29日(火)	福島県支部	Web 会議 会長 1
⑧ 青少年赤十字福島県指導者講習会会・学校公開	10月1日(金)	飯豊小・向陽中	
⑨ 日本赤十字社国際活動オンライン勉強会	10月26日(火)・30日(土) 11月22日(火)・27日(土)	各高校	Web 開催 高校生メンバー・教諭
⑩ JRC 県指導者協議会総会・研修会(第2回)	11月11日(木)	福島県支部	各地区会長
⑪ 高等学校 JRC 県大会	11月12日(金)	各高校	Web 開催 高校生メンバー・教諭
⑫ JRC スタディー・プログラム	12月25日(土)～26日(日)		Web 開催 高校生メンバー・教諭
⑬ 指導主事研究会	9月30日(木)	参加者所属先	Web 開催 校長 2
⑭ JRC 県指導者協議会役員会	2月10日(木)	福島県支部	役員
⑮ 福島・栃木 高校生メンバー交流会	2月27日(日)	各高校	Web 開催 高校生メンバー・教諭
⑯ 第1ブロック支部青少年赤十字高校生メンバー交流会	3月26日(土)	福島県支部 各高校	Web 開催 高校生メンバー・教諭

## 7 県内トレーニングセンターの開催

トレーニングセンターは、青少年赤十字の教育プログラムのひとつであり、集団生活を伴う学習活動の場で赤十字と青少年赤十字について理解を深めるとともに、リーダーとして活躍できる児童・生徒の育成を目指している。

令和3年度に計画した下記地区のトレーニングセンターは、新型コロナウイルス感染防止のため小中は中止したが、高校はリモートで行うなどした。

### 【小中】

福島・伊達・安達（7月） 郡山（8月） 西白河（7月） 北会津・会津若松（7月）  
耶麻（8月） 両沼（8月） いわき（8月）

### 【高校】

県高校（7月、オンライン） 県北（オンライン） 県南（8月、安積黎明高校）  
いわき・相双（8月、オンライン）

## 8 指導者研修会・講習会等の開催

地区	月日	内容	会場	参加人数	主な内容
福島	4月28日(水)	総会・研修会			研修会中止・総会文書審議
伊達	4月26日(月)	総会・研修会	睦合小学校	20名	研修会・総会
安達	4月9日(金)	総会・研修会	岳下住民センター	20名	総会のみ実施・研修会中止
福伊安	7月30日(金)	指導者講習会			中止
郡山	4月7日(水)	総会・研修会			研修会中止・総会文書審議
岩瀬	5月6日(木)	総会・研修会			研修会中止・総会文書審議
石川	6月7日(月)	総会・研修会	野木沢小	23名	総会・研修会
田村	4月26日(月)	総会・研修会	船引小	25名	総会のみ実施
//	6月15日(火)	指導者講習会			中止
西白河	4月2日(金)	総会・研修会	表郷小	36名	総会のみ実施
//	7月21日(水)	指導者研修会			中止
東白河	4月2日(金)	総会・研修会	表郷小	10名	総会のみ実施
会津	4月30日(金)	総会・研修会			研修会中止・総会文書審議
//	8月2日(月)	指導者講習会			中止
耶麻	4月7日(水)	総会・研修会	喜多方一小	24名	総会のみ実施
//	8月1日(日)	指導者講習会			中止
両沼	4月7日(水)	総会・研修会	高田小	23名	総会のみ実施
南会津	4月7日(水)	総会・研修会	御蔵入交流館	21名	研修会中止
//	7月28日(水)	指導者講習会			中止
相馬	4月28日(水)	総会・研修会			Web開催
いわき	5月25日(火)	総会・研修会			研修会中止・総会文書審議
//	7月29日(木)	指導者講習会			中止
高等学校	5月17日(月)	総会・研修会			Web開催



## 9 福島県青少年赤十字賛助奉仕団

「賛助奉仕団」とは、小・中・高等学校で青少年赤十字活動の指導にあっていた元教員が、青少年赤十字の普及発展に寄与することを目的に活動しているボランティア組織である。

ア 団員数 6地区 合計 746名 (令和3年8月1日)  
 県北 118名 県中 182名 県南 151名  
 会津 137名 いわき 36名 相双 122名

### イ 会議等

会議名	場所	参加者	期日
①県賛助奉仕団総会	日赤県支部	各地区代議員	5月 文書審議
②全国賛助奉仕団協議会役員会・総会	日赤本社	全国会長1、県委員長1、他1	9月 文書審議
③青少年赤十字100文字作品審査協力	日赤県支部	団員	10月～1月
④NHK 海外たすけあい街頭募金	県内主要市	団員	12月
⑤全国賛助奉仕団協議会役員会	日赤県支部	全国役員、県委員長等	2月 文書審議

## 10 青少年赤十字防災教育プログラムの普及

ア 各教育事務所における県教育委員会との共催 防災教育研究協議会

※防災教育の担当が福島県教育庁義務教育課から健康教育課へ移動したため、これまでの防災教育研究協議会は解消された。



イ 各学校での防災教育（児童・生徒向け防災教育プログラム）

日程	学校名	内容	参加者数(人)
1 6月9日(水)	須賀川市立仁井田小学校	非常食体験、BCW 1	児童生徒58・教員3
2 6月28日(月)	福島市立吉井田小学校	BCW 1	児童生徒77・教員3
3 7月2日(金)	相馬市立中村第二中学校	BCW 1	児童生徒49・教員5
4 7月27日(火)	福島県立安達東高等学校	中止	
5 9月3日(金)	相馬市立山上小学校	非常食体験、いえまですごろく	児童生徒7・教員2
6 9月7日(火)	いわき市立江名中学校	中止	
7 10月19日(火)	いわき市立田人小学校	非常食体験、BCW 3	児童生徒31・教員6
8 10月22日(金)	相馬市立日立木小学校	非常食体験、BCW 2、いえまですごろく	児童生徒28・教員5



## 5 青少年赤十字(JRC)の育成

日程	学校名	内容	参加者数(人)
9 11月5日(金)	南相馬市立八沢小学校	災害時シミュレーション	児童生徒23・教員2
10 11月6日(土)	南相馬市立太田小学校	非常食体験4	児童生徒43・教員5・保護者26
11 11月13日(土)	相馬市教育委員会	そうまジュニア防災マスター 非常食体験、いえまですごろく、応急手当	児童生徒15・保護者5
12 11月29日(月)	郡山市郡山第七中学校	非常食体験、BCW1、BCW4	児童生徒8・教員4
13 1月22日(土)	いわき市中央大公民館	中止	
14 1月28日(金)	須賀川市立西袋第一小学校	中止	
15 2月17日(木)	西郷村立熊倉小学校	中止	
16 3月11日(金)	棚倉町立近津小学校	非常食体験、BCW3	児童生徒117・教員12

※BCW = 「防災コミュニケーションワークショップ」の略  
 BCW1…竹ひごタワー、BCW2…ストーリーを完成させよう、BCW3…ドローイング・チャレンジ、  
 BCW4…自分だったらどうする

### 11 青少年赤十字 詩・100文字提案作品募集

青少年赤十字加盟校の児童生徒を対象にテーマを設け、「気づき、考え、実行したこと、しようとしたこと」を詩や100文字に表現した作品の募集を行っている。

- ア 募集期間 令和3年4月1日～令和3年8月30日
- イ 募集テーマ 詩 「いのちの詩・愛の詩」  
 100文字提案 「わたしにできるボランティア」  
 「わたしのふるさと」  
 「わたしが感動したことばやできごと」
- ウ 応募校数・応募点数 45校 2,878点
- エ 作品審査会(2次) 令和3年11月12日(金)  
 場所：日本赤十字社福島県支部
- オ 入賞作品 支部長賞 5点  
 県指導者協議会長賞 1点  
 県賛助奉仕団委員長賞 1点  
 学校賞 5校 学校奨励賞 3校  
 優秀賞 13点 佳作 89点  
 入選 202点
- カ 最優秀作品表彰式 令和3年12月24日(金) 福島県青少年会館



## 12 青少年赤十字国際交流事業

青少年赤十字の実践目標のひとつである「国際理解・親善」の具体的な事業として、本県の青少年赤十字メンバーを海外の赤十字加盟国へ派遣したり、海外の赤十字メンバーの受け入れを行ったりしている。

ア 本社主催の日本赤十字国際活動オンライン勉強会に高校生が参加した。

4回開催 10月26日(金)・10月29日(金)・11月15日(火)・11月19日(金)

イ 青少年赤十字活動資金

青少年赤十字メンバー及び賛助奉仕団から…「青少年赤十字一円玉募金」への活動資金の寄託があった。



前年度繰越額	本年度寄託額	本年度使用額	本年度末残高
245,030円	68,100円	0円	313,130円

# 6

## 社会福祉活動

### 1 高齢者福祉対策事業

高齢者作品展示会支部長顕彰  
30地区・分区で開催

### 2 保健衛生事業

#### ○赤十字健康講演会

月 日	会 場	講 師	演 題	参加人数
10月28日(木)	白河市立図書館 「りぶらん」	福島赤十字病院 健診センター保健師	これからも元気で過ごすための 生活の工夫と運動	30人
11月16日(火)	福島市 西学習センター	福島赤十字病院 管理栄養士	高齢者の食事について	19人
12月2日(木)	南相馬市 原町区福祉会館	福島赤十字病院 摂食・嚥下障害看護認定看護師	食べ続けるための口腔ケア	41人

### 3 地域高齢者生活支援活動

#### ○にこにこ健康教室

新型コロナウイルス感染症感染拡大防止のため、開催はなかった。

### 4 会議・研修会

名 称	月 日	場 所	参加人数等
①地域包括ケア担当国会議	5月25日(火)	Web 会議	支部 1
②地域包括ケア担当国会議	10月27日(水)	Web 会議	支部 2
③地域包括ケア担当国会議	令和4年2月2日(水)	Web 会議	支部 4

# 7

## 国際活動

日本赤十字社は、赤十字国際委員会、国際赤十字・赤新月社連盟および各国赤十字・赤新月社と連携しつつ、様々な国際活動を行っている。

### ① 第1ブロック支部による国際活動への参加

第1ブロック（北海道・東北6県）の各支部では、資金を拠出し、国際活動に参加しており、下記の救急法普及支援事業や青少年赤十字海外支援事業を推進している。

第一ブロック国際活動参加費		総 額	福島県支部の拠出額
救急法普及支援事業	ラ オ ス	750,000円	122,000円
青少年赤十字海外支援事業	バ ヌ ア ツ	2,625,000円	423,000円
合 計		3,375,000円	545,000円

### ② 救援金受付状況（福島県支部取扱分）

救 援 金 名	件 数	金 額
①無指定海外救援金	0	0円
②中東人道危機救援金（平成27年度から累計）	2 (26)	18,110円 (303,540円)
③バングラデシュ南部避難民救援金	2	18,110円
④2021年ハイチ地震救援金	3	83,110円
⑤アフガニスタン人道危機救援金	2	18,110円
⑥トンガ大洋州噴火津波救援金	8	57,382円
⑦ウクライナ人道危機救援金	55	4,445,743円

### ③ NHK 海外たすけあいキャンペーン（12月1日～25日）

#### 【福島県支部実績】

全 体	898件	9,671,325円
(内訳)支部受付	314件	2,318,260円
本社扱郵便為替	584件	7,353,065円

街頭募金 8市12会場 285,199円

(福島市、郡山市、白河市3、相馬市、南相馬市、会津若松市2、いわき市、喜多方市2)

### ④ 安否調査

日本赤十字社は、赤十字国際委員会を中心に、世界192カ国に組織されている各国赤十字・赤新月社との連携によって紛争や災害により行方不明になった家族の消息および安否の調査を行っている。

◎令和3年度 依頼なし

# 8

## 広報資料

社旨普及の広報活動は、赤十字の重要な業務であり、あらゆる機会に「人道・博愛」の精神の普及啓発に努めている。

また、この活動は、赤十字関係者に対する社業推進の状況報告を意味するとともに、広く県民に対する協力支持を要請する啓発活動であり、5月8日の世界赤十字デー、5月の赤十字運動月間を中心に展開している。

本年度の社旨普及、広報活動及び主な刊行物は次のとおりである。

### ① 日赤本社刊行物の配布

赤十字 NEWS（毎月1日発行）	29,800部
青少年赤十字指導情報	2,250部
青少年赤十字機関誌（小）	1,400部
青少年赤十字機関誌（中・高）	850部
赤十字この1年（DVD）	

### ② 支部発行物の作成配布

ア 社員増強用資料	
赤十字社員加入と募集の手引き	33,500部
赤十字のしおり（Q & A）	7,500部
赤十字社員増強運動用チラシ	677,000部
日赤福島県支部広報紙「日赤ふくしま」第46号	385,000部
イ JRC 用資料	
青少年赤十字活動4つの勧め	3,000枚
青少年赤十字研究推進校紀要	500部
青少年赤十字加盟校名簿	1,000部
うつくしま JRC フォトニュース第57号・58号・59号	各2,700枚
JRC ふくしま（青少年赤十字福島県指導者協議会発行）第66号	2,000部
// 第67号	2,700部
わたしの青少年赤十字 詩・100文字提案作品集	3,500部

### ③ ホームページ等の開設

ホームページ	<a href="https://www.jrc.or.jp/chapter/fukushima">https://www.jrc.or.jp/chapter/fukushima</a> (平成14年3月20日開設、令和3年4月1日リニューアル・URL 変更)
インスタグラム	<a href="https://www.instagram.com/nissekifukushima">https://www.instagram.com/nissekifukushima</a> (平成29年12月1日開設)

ツイッター <https://twitter.com/nisseki07>  
(平成29年12月1日開設)

フェイスブック <https://www.facebook.com/日本赤十字社福島県支部-1896501787332037/>  
(平成29年12月1日開設)

#### 4 新聞・テレビ・ラジオ広報

- ア 新聞広告（福島民報社・福島民友新聞社）防災月間（9月）
- イ 本社製作テレビCM（FTV・FCT・KFB・TUF）赤十字運動月間（5月）
- ウ ラジオ広告（ラジオ福島）  
ラジオ福島「命を守るキャンペーン～ふくしまゼロアクション～」協賛  
ラジオスポット 20秒×50回（年間）
- エ ラジオ福島・ふくしまFM 共同特別番組への協賛広告（2月）  
若年層向けの「夢の実現にがんばるあなたを応援」企画  
両社において放送前の協賛者名入り40秒番宣スポット5回、番組内協賛社CM40秒1回
- オ ふくしまFMでの「ACTION! 防災・減災キャンペーン」告知（3月）  
同社番組「福空間（フクスペース）」に支部職員出演（収録）  
同社SNS上でのツイートキャンペーン

#### 5 「ACTION! 防災・減災キャンペーン」

- ア 協賛法人社資募集（1月～3月）
- イ 本社特設サイトへの協賛企業バナー掲示
- ウ Twitterによる個人での防災の取り組みを発信呼びかけ



支部広報紙「日赤ふくしま」第46号



ACTION! 防災・減災キャンペーンポスター



# 9

## 医療事業

日本赤十字社の病院は、赤十字社の使命を達成するため、(1)災害時における医療救護 (2)巡回診療その他の地域福祉活動 (3)保健活動 (4)一般診療等の事業を行っている。

福島赤十字病院は、地域社会の公的医療機関としての役割の他、救急病院、地域災害医療センター、福島県原子力災害拠点病院として指定され、また、医師の臨床研修及び看護師の養成にも協力している。

### ① 医療施設

福島赤十字病院（福島市八島町7-7）



### ② 診療科（25科）

内科、糖尿病・代謝内科、リウマチ膠原病内科、呼吸器内科、循環器内科、消化器内科、脳神経内科、精神科、小児科、外科、心臓血管外科、呼吸器外科、整形外科、脳神経外科、皮膚科、形成外科、泌尿器科、産婦人科、眼科、耳鼻咽喉科、放射線科、麻酔科、リハビリテーション科、救急科、病理診断科

### ③ 病床数と職員数

許可病床数 296床〔一般 268床 HCU 12床 感染症 6床 精神 10床〕  
職員数 614名〔医師 72名（研修医16名含む） 看護師 327名 医療技術員 98名 その他 117名〕

### ④ 患者数

	外 来			入 院		
	令和3年度(人)	令和2年度(人)	前年度比増減(%)	令和3年度(人)	令和2年度(人)	前年度比増減(%)
総患者数	142,372	132,646	7.3	84,554	81,831	3.3
新患者数	10,200	8,232	23.9	6,684	6,452	3.6
1日平均	588.3	548.1	7.3	231.7	224.2	3.3
平均在院日数(一般)				11.5日	11.4日	0.1日
病床利用率				73.1%	70.7%	2.4

**5 紹介患者数**

	令和3年度	令和2年度	前年度比増減
紹介患者数(人)	6,639	5,989	650
紹介率(%)	92.5	98.5	-6.0

**6 救急車両による搬入患者数**

	令和3年度	令和2年度	前年度比増減
患者数(人)	3,359	2,888	471
内入院患者数(人)	1,597	1,524	73

**7 医療機器の整備 (令和3年度分 主なもの)**

品名	規格・型式	台数	メーカー
気化器	D-Vapor 3000	1	ドレーゲルジャパン株式会社
Tec6プラス気化器デスフルラン	M1221495 5392359	1	GEヘルスケアジャパン
マルチカラーレーザー光凝固装置	MC-500	1	株式会社ニデック
高解像硬性鼻咽喉鏡	WA4KS400 0°	1	オリンパス
高解像硬性鼻咽喉鏡	WA4KS470 70°	1	オリンパス
ACT装置	CA-300	1	東レ・メディカル株式会社
全自動身長体重計	AD-6228A	1	株式会社エー・アンド・デイ
睡眠評価装置パルススリープ	LS-140	1	フクダ電子株式会社
経直腸バイプレーンプローブ	PVL-715RS	1	キャノンメディカルシステムズ株式会社
自動染色装置	DRS-Prisma-P-JD	1	サクラファインテックジャパン株式会社
全自動錠剤分包機	Ci-2680	1	株式会社トーショー
血液培養自動分析装置	BDバクテックFX40システム	1	日本ベクトン・ディッキンソン株式会社
ウルトラベースユニット	4-O-A-2102	1	インテグラ社
セルセーバーエリートプラス	CSE-EW-JA	1	泉工医科工業株式会社
超音波診断装置	SONOVISTA GX30	2	コニカミノルタジャパン株式会社
超音波診断装置	Aplio i900CV	1	キャノンメディカルシステムズ株式会社
ENOVA LED ヘッドライト	QUASAR Cool 90092-003	1	ガデリウス・メディカル株式会社
ドブラ胎児診断装置	CEVO BA2057 FD-490S	1	トーイツ株式会社
泌尿器科検診台	UR-7300	1	タカラベルモント株式会社
バイポーラ凝固止血器	GN160	1	ビーブラウンエースクラブ
運動負荷専用血圧計	タンゴ M2 99-0088-40	1	フクダ電子株式会社
検診台	megujoyEX 1146675 回転タイプ	1	アトムメディカル
ENOVA LED ヘッドライト	QUBIT クールプレミアム パッケージ90087-003	1	ガデリウス・メディカル株式会社
黄疸計	JM-105	1	コニカミノルタジャパン株式会社

**8 訪問看護ステーションの運営**

訪問延べ回数 4,860回

## 9 各種教室及び相談

### ア 各種教室

・母乳栄養と妊娠中の栄養	108名	・父親のための子育てクラス	95名
・もうすぐお母さんクラス	82名	・孫育てクラス	0名
・マタニティーヨガクラス	0名	・お産後サークル	0名
・同伴分娩クラス	0名	・家族でいいお産	0名

### イ 相談

- ・医療相談 6,994回

### ウ 各種検診・保健指導

・乳児検診（30日健診）	171名	・福島市4ヵ月検診	58名
・各種ドック	377名	・福島市10ヵ月検診	48名
・市町村民健診	616名	・協会けんぽ生活習慣病予防健診	954名
・小児健診（福島県県民健康管理調査）	3名	・妊婦健診	1,705名（延べ）
・内部被ばく検査	0名	・その他の健診	2,571名
・保健指導	505件	・甲状腺超音波検査（福島県県民健康管理調査）	81名

# 10 血液事業

「血液事業」とは、一般に、血液を提供していただける方を募集し、その血液を採取し、血液製剤として、治療を必要とする患者さんのため、医療機関に供給する一連の事業のことをいう。

## 1 献血状況

令和3年度の全血献血量は、200mL換算で対前年度比100.7%の103,238単位であった。成分献血は対前年度比98.1%であったが、医療需要に対応した献血状況となっている。200mL献血については、若年層の献血者確保対策により対前年度比122.3%であった。400mL献血は、100.4%であった。400mL献血比率は、対前年度比0.6ポイント減の96.8%となっている。

単位：バッグ

献血方法	令和3年度			令和2年度			令和元年度	
	献血数	構成比率(%)	対前年度比率(%)	献血数	構成比率(%)	対前年度比率(%)	献血数	構成比率(%)
成分献血	23,803	31.2	98.1	24,272	31.8	98.2	24,720	32.0
血小板献血	9,143	12.0	100.5	9,099	11.9	92.1	9,883	12.8
血漿献血	14,660	19.2	96.6	15,173	19.9	102.3	14,837	19.2
全血献血	52,454	68.8	100.9	51,963	68.2	98.7	52,625	68.0
400mL献血(ア)	50,784	66.6	100.4	50,598	66.4	99.5	50,835	65.7
200mL献血(イ)	1,670	2.2	122.3	1,365	1.8	76.3	1,790	2.3
合計	76,257	100.0	100.0	76,235	100.0	98.6	77,345	100.0
全血の単位換算数 【(ア×2)+(イ×1)】	103,238		100.7	102,561		99.1	103,460	
400mL献血比率 【ア/(ア+イ)】	96.8%			97.4%			96.6%	

※ 令和3年度の400mL献血比率の状況は、医療需要と同程度の約96.8%で推移している。

## 2 供給状況

令和3年度は、234,891単位（200mL換算）の血液製剤を供給した。対前年度比については、血小板製剤が102.8%、血漿製剤が100.1%、赤血球製剤が99.3%、総供給単位の合計で100.9%と、令和2年度と同等であった。

単位：200mL単位換算

製剤別	令和3年度			令和2年度			令和元年度	
	供給数	構成比率(%)	対前年度比率(%)	供給数	構成比率(%)	対前年度比率(%)	供給数	構成比率(%)
血小板製剤	105,385	44.9	102.8	102,480	44.0	91.7	111,760	44.7
血漿製剤	25,613	10.9	100.1	25,586	11.0	87.0	29,408	11.8
赤血球製剤	103,893	44.2	99.3	104,633	45.0	96.0	108,964	43.6
合計	234,891	100.0	100.9	232,699	100.0	93.0	250,132	100.0

※ 血漿製剤の単位換算は、FFP-LR120を1単位、FFP-LR240を2単位、FFP-LR480を4単位にて算出。

### 3 推進会議等の開催

会 議 名	期 日	場 所
①令和3年度保健所等業務担当課長等会議	5月12日(水)	文書審議
②令和3年度福島県献血推進協力会総会	7月9日(金)	福島県薬剤師会館
③令和3年度福島県献血推進協議会		文書審議

### 4 献血思想の普及啓発・行事

献血思想の普及と献血意識の高揚を図り、献血運動を推進するため、広報活動を実施した。

#### ア 「愛の血液助け合い運動」の実施

主 催：福島県、各市町村、日本赤十字社福島県支部

期 間：令和3年7月1日～31日

実施内容：ポスター等の広報資材を各保健福祉事務所、市町村に配布、県内各方部において、赤十字奉仕団等と共に献血を呼びかけた。

街頭献血キャンペーン：県内13市で実施



#### イ 「献血感謝デー」等の開催

令和3年度は、福島センター、いわき出張所および郡山駅前出張所において新型コロナウイルス感染症防止対策を講じながら開催。

場 所	期 間	献血者数
福島県赤十字血液センター	令和4年3月12日(土)～13日(日)	153
福島県赤十字血液センター 会津出張所	未開催	
福島県赤十字血液センター いわき出張所	令和4年3月12日(土)～26日(土)間の7日	282
福島県赤十字血液センター 郡山駅前出張所	令和3年12月6日(月)～24日(金)の平日15日間	591

※ いわき出張所の開所日は毎週 火・木・土曜日

#### ウ 夏休み血液センター親子見学会

令和3年度は、福島県赤十字血液センターにて新型コロナウイルス感染症防止対策を講じながら開催。



## エ キャンペーン

### ①「全国学生クリスマス献血キャンペーン2021」

主 催：全国学生献血推進実行委員会

期 日：令和3年12月1日～12月31日

### ②令和4年「はたちの献血」キャンペーン

主 催：厚生労働省、都道府県、日本赤十字社

期 日：令和4年1月1日～2月28日



全国学生クリスマスキャンペーン（福島市）

## 5 骨髄ドナーの登録者受入及び登録状況

骨髄移植推進財団が推進する骨髄バンク事業のうち、日本赤十字社は造血肝細胞提供支援機関の指定を受け、骨髄提供希望者の登録管理業務を行っている。

骨髄バンク集団登録説明会及び献血併行型ドナー登録会は、県骨髄バンク推進協議会と各保健所が中心となり、今年度県内で53回実施され、265人が登録した。

福島県の総登録者数 14,370人

## 6 日本赤十字社有功章等贈与規則に基づく表彰

### ア 献血団体功労

①社長感謝状 15団体

②金色有功章 15団体

③銀色有功章 25団体

④支部長感謝状（金枠） 51団体

⑤支部長感謝状（銀枠） 20団体

### イ 献血推進団体功労

①社長感謝状 2団体

②金色有功章 0団体

③銀色有功章 0団体

④支部長感謝状（金枠） 6団体

⑤支部長感謝状（銀枠） 1団体

# 11

## 評議員会

- (1) 令和3年6月 令和3年度第1回評議員会（文書審議）  
議案第1号 令和2年度日本赤十字社福島県支部事業報告及び収支決算について  
議案第2号 令和2年度福島赤十字病院事業報告及び収支決算について  
議案第3号 令和2年度福島県赤十字血液センター事業報告について
- (2) 令和4年2月 令和3年度第2回評議員会（文書審議）  
議案第1号 令和3年度日本赤十字社福島県支部収支予算の補正について  
議案第2号 令和4年度日本赤十字社福島県支部事業計画及び収支予算について  
議案第3号 令和4年度福島赤十字病院事業計画及び収支予算について  
議案第4号 令和4年度福島県赤十字血液センター事業計画について  
議案第5号 日本赤十字社代議員の選出について

# 12

## 業務監理執行及び会計の監査

令和3年6月8日、監査委員により、次のとおり令和2年度業務監理執行並びに会計について書面による監査が実施された。

- 令和2年度日本赤十字社福島県支部の業務監理執行及び会計の監査
- 令和2年度福島赤十字病院の業務監理執行及び会計の監査
- 令和2年度福島県赤十字血液センターの業務監理執行の監査



# 13 赤十字社員増強運動

## ① 赤十字社員増強運動の推進と成果

### ア 赤十字社員数

日本赤十字社は、社員をもって組織されており、毎年5月を中心に社員増強運動を展開している。当支部の社員数は下表のとおりである。

	社 員 数
社員（個人）	3,667名
社員（法人）	940法人
合 計	4,607名・法人

※社員…赤十字の理念と活動に賛同いただき、社費として年2,000円以上ご協力の方

※本社通知「新型コロナウイルス感染症のまん延を踏まえた会員脱退の取扱いについて」に基づき算定

### イ 社資募集実績額

赤十字の事業は、社員が納入する社費（会費）と寄付金を財源として実施している。令和3年度の社資（社費及び寄付金）実績額は下表のとおりである。

	社資目標額	社資実績額	達成率
一般社資	259,104,000円	261,212,637円	100.8%
法人社資	10,000,000円	27,568,950円	275.7%
合 計	269,104,000円	288,781,587円	107.3%

### ウ 令和3年度社資実績額表

(単位：円)

	地区名	目標額	一般社資実績額	法人社資実績額	実績合計額	達成率(%)	前年度実績額
市 地 区	福島市地区	37,513,000	32,758,333	1,947,000	34,705,333	92.5	35,469,833
	伊達市地区	9,834,000	9,633,000	0	9,633,000	98.0	9,942,150
	二本松市地区	8,362,000	7,710,500	100,000	7,810,500	93.4	9,425,365
	本宮市地区	4,108,000	3,334,000	0	3,334,000	81.2	3,324,510
	郡山市地区	41,868,000	398,336,385	1,000,000	39,336,385	94.0	39,034,810
	田村市地区	5,562,000	5,197,000	0	5,197,000	93.4	5,327,100
	須賀川市地区	8,917,000	7,698,270	0	7,698,270	86.3	8,710,150
	白河市地区	8,198,000	8,049,200	4,913	8,054,113	98.2	7,216,336
	会津若松市地区	16,073,000	14,852,864	1,102,000	15,954,864	99.3	16,033,499
	喜多方市地区	7,254,000	6,558,876	0	6,558,876	90.4	7,140,423
	南相馬市地区	6,576,000	7,400,500	0	7,400,500	112.5	6,569,533
	相馬市地区	4,226,000	3,899,050	78,000	3,977,050	94.1	4,188,950
	いわき市地区	42,438,000	39,710,300	0	39,710,300	93.6	39,175,159
	市地区合計	200,929,000	18,518,278	4,231,913	189,370,191	94.2	191,557,818

(単位：円)

	分 区 名	目 標 額	一般社資実績額	法人社資実績額	実績合計額	達成率(%)	前年度実績額
北 県	川俣町分区	2,418,000	2,349,600	0	2,349,600	97.2	2,381,900
	桑折町分区	1,851,000	1,754,500	0	1,754,500	94.8	1,806,800
	国見町分区	1,723,000	1,834,004	0	1,834,004	106.4	1,835,400
	大玉村分区	985,000	1,086,500	0	1,086,500	110.3	1,076,500
	<b>県北地区計</b>	<b>6,977,000</b>	<b>7,024,604</b>	<b>0</b>	<b>7,024,604</b>	<b>100.7</b>	<b>7,100,600</b>
中 県	分 区 名	目 標 額	一般社資実績額	法人社資実績額	実績合計額	達成率(%)	前年度実績額
	三春町分区	2,416,000	2,195,250	0	2,195,250	90.9	2,186,500
	小野町分区	1,580,000	2,435,000	0	2,435,000	154.1	1,459,000
	鏡石町分区	1,653,000	1,600,000	0	1,600,000	96.8	1,606,000
	天栄村分区	857,000	831,600	0	831,600	97.0	831,600
	石川町分区	2,276,000	1,903,501	0	1,903,501	83.6	1,815,501
	玉川村分区	909,000	86,500	0	86,500	95.2	860,000
	平田村分区	919,000	821,500	0	821,500	89.4	827,500
	浅川町分区	895,000	840,500	0	840,500	93.9	853,709
	古殿町分区	889,000	764,500	0	764,500	86.0	813,000
<b>県中地区計</b>	<b>12,394,000</b>	<b>12,256,851</b>	<b>0</b>	<b>12,256,851</b>	<b>98.9</b>	<b>11,252,810</b>	
南 県	分 区 名	目 標 額	一般社資実績額	法人社資実績額	実績合計額	達成率(%)	前年度実績額
	西郷村分区	2,313,000	2,447,000	7,000	2,454,000	106.1	2,437,000
	泉崎村分区	798,000	832,000	0	832,000	104.3	834,000
	中島村分区	661,000	565,000	0	565,000	85.5	566,500
	矢吹町分区	2,152,000	2,063,250	0	2,063,250	95.9	2,077,850
	棚倉町分区	2,024,000	1,773,500	0	1,773,500	87.6	2,380,500
	矢祭町分区	910,000	824,000	0	824,000	90.5	827,500
	塙町分区	1,631,000	1,411,730	0	1,411,730	86.6	1,516,340
	鮫川村分区	594,000	580,000	0	580,000	97.6	582,000
<b>県南地区計</b>	<b>11,083,000</b>	<b>10,496,480</b>	<b>7,000</b>	<b>10,503,480</b>	<b>94.8</b>	<b>11,221,690</b>	
会 津	分 区 名	目 標 額	一般社資実績額	法人社資実績額	実績合計額	達成率(%)	前年度実績額
	磐梯町分区	565,000	527,500	0	527,500	93.4	528,000
	猪苗代町分区	2,529,000	2,338,450	0	2,338,450	92.5	2,555,602
	北塩原村分区	527,000	378,500	0	378,500	71.8	892,700
	西会津町分区	1,382,000	1,191,501	0	1,191,501	86.2	1,184,001
	会津坂下町分区	1,992,000	1,735,800	0	1,735,800	87.1	1,574,500
	湯川村分区	438,000	1,091,000	0	1,091,000	249.1	633,000
	柳津町分区	622,000	554,000	0	554,000	89.1	611,013
	会津美里町分区	3,231,000	2,909,710	0	2,909,710	90.1	2,956,960
	三島町分区	385,000	334,500	1,000,000	1,334,500	346.6	1,841,000
	金山町分区	568,000	488,000	0	488,000	85.9	503,000
	昭和村分区	401,000	403,900	0	403,900	100.7	391,500
	<b>会津地区計</b>	<b>12,640,000</b>	<b>11,952,861</b>	<b>1,000,000</b>	<b>12,952,861</b>	<b>102.5</b>	<b>13,671,276</b>
南 会 津	分 区 名	目 標 額	一般社資実績額	法人社資実績額	実績合計額	達成率(%)	前年度実績額
	南会津町分区	2,922,000	2,521,500	1,500	2,523,000	86.3	2,577,500
	下郷町分区	1,088,000	1,080,162	8,000	1,088,162	100.0	1,096,392
	檜枝岐村分区	118,000	97,500		97,500	82.6	100,500
	只見町分区	959,000	664,500		664,500	69.3	670,000
<b>南会津地区計</b>	<b>5,087,000</b>	<b>4,363,662</b>	<b>9,500</b>	<b>4,373,162</b>	<b>86.0</b>	<b>4,444,392</b>	
相 双	分 区 名	目 標 額	一般社資実績額	法人社資実績額	実績合計額	達成率(%)	前年度実績額
	新地町分区	1,189,000	1,159,000	0	1,159,000	97.5	1,154,500
	飯舘村分区	310,000	288,600	0	288,600	93.1	1,300,800
	双葉町分区	100,000	271,800	0	271,800	271.8	246,600
	檜葉町分区	733,000	1,668,000	0	1,668,000	227.6	1,460,000
	広野町分区	500,000	1,086,275	0	1,086,275	217.3	607,000
	富岡町分区	300,000	498,400	10,000	508,400	169.5	20,000
	川内村分区	344,000	745,500	0	745,500	216.7	768,500
	大熊町分区	130,000	1,195,171	0	1,195,171	919.4	1,138,623
	浪江町分区	318,000	598,600	0	598,600	188.2	230,000
葛尾村分区	70,000	205,500	50,000	255,500	365.0	162,000	
<b>相双地区計</b>	<b>3,994,000</b>	<b>7,716,846</b>	<b>60,000</b>	<b>7,776,846</b>	<b>194.7</b>	<b>7,088,023</b>	



郡地区計	52,175,000	53,811,304	1,076,500	54,887,804	105.2	54,778,791
地区分区計	253,104,000	238,949,582	5,308,413	244,257,995	96.5	246,336,609

		目標額	一般社資実績額	法人社資実績額	実績合計額	達成率(%)	前年度実績額
支部	支部直接(個人)	6,000,000	22,263,055		22,263,055	371.1	63,341,755
	支部直接(法人)	10,000,000		22,260,537	22,260,537	222.6	13,911,436
支部扱合計		16,000,000	22,263,055	22,260,537	44,523,592	278.3	77,253,191

		目標額	一般社資実績額	法人社資実績額	実績合計額	達成率(%)	前年度実績額
一般社資合計		259,104,000	261,212,637		261,212,637	100.8	301,752,423
法人社資合計		10,000,000		27,568,950	27,568,950	275.7	21,837,377
福島県支部合計		269,104,000	261,212,637	27,568,950	288,781,587	107.3	323,589,800

## 工 社資目標額と実績額の推移

	社資目標額(千円)			社資実績額(円)			達成率(%)
	一般	法人	合計	一般	法人	合計	
令和3年度	259,104	10,000	269,104	261,212,637	27,568,950	288,781,587	107.3
令和2年度	259,104	10,000	269,104	301,752,423	21,837,377	323,589,800	120.2
令和元年度	256,299	10,000	266,299	254,272,806	19,467,118	273,739,924	102.8
平成30年度	256,299	10,000	266,299	281,454,989	22,030,260	303,485,249	114.0
平成29年度	256,299	10,000	266,299	267,308,697	28,601,881	295,910,578	111.1
平成28年度	259,335	10,000	269,335	271,623,533	17,108,292	288,731,825	107.2
平成27年度	255,335	8,000	263,335	276,792,490	21,545,712	298,338,202	113.3
平成26年度	255,335	8,000	263,335	266,524,268	15,934,934	282,459,202	107.3
平成25年度	251,685	8,000	259,685	267,102,167	20,592,171	287,694,338	110.8
平成24年度	256,269	10,000	266,269	250,382,306	8,776,731	259,159,037	97.3

## ② 表彰

### ア 社資功勞表彰

#### (ア) 紺綬褒章 【1件】

(社資500万円以上の個人並びに1,000万円以上の法人)

市町村	個人	法人
東京都	1	

#### (イ) 厚生労働大臣感謝状 【4件】

(同一年度内に社資100万円以上の個人並びに300万円以上の法人)

市町村	個人	法人
伊達市	1	
会津若松市	1	
小野町	1	
飯舘村	1	

(ウ) 社長感謝状 【10件】

(金色有功章受章後の社資が50万円以上都度)

市 町 村	個 人	法 人
福 島 市	2	3
会 津 若 松 市	2	1
い わ き 市		1
小 野 町	1	

(イ) 金色有功章 【19件】

(社資が50万円以上)

市 町 村	個 人	法 人
福 島 市	2	
伊 達 市	3	
本 宮 市		2
郡 山 市	3	1
田 村 市	1	
須 賀 川 市	1	

市 町 村	個 人	法 人
南 相 馬 市	1	
矢 吹 町		1
棚 倉 町	1	
湯 川 村	1	
広 野 町	1	
東 京 都	1	

(オ) 銀色有功章 【17件】

(社資が20万円以上)

市 町 村	個 人	法 人
福 島 市	3	
伊 達 市	1	
郡 山 市	1	1
会 津 若 松 市	1	
南 相 馬 市	1	

市 町 村	個 人	法 人
い わ き 市	3	2
桑 折 町		1
石 川 町	1	
檜 葉 町		1
富 岡 町	1	

イ 業務功労表彰

(ア) 役職功労 【金色有功章2件、銀色有功章1件】

市 町 村	役 職	金色有功章	銀色有功章
郡 山 市	協賛委員	2	
磐 梯 町	副分区長		1

(イ) 奉仕団功労 【社長感謝状25件 (金色有功章受章後活動年数10年以上)】

市 町 村	社長感謝状
福 島 市	2
伊 達 市	2
二 本 松 市	1
本 宮 市	1
田 村 市	4
会 津 若 松 市	2
喜 多 方 市	3
南 相 馬 市	1

市 町 村	社長感謝状
桑 折 町	1
鏡 石 町	1
石 川 町	1
平 田 村	1
古 殿 町	1
北 塩 原 村	1
会 津 美 里 町	2
昭 和 村	1



(ウ) 奉仕団員等奉仕者 【社長感謝状2件（金色有功章受章後活動年数10年以上）、金色有功章80件（活動年数20年以上）、銀色有功章150件（活動年数15年以上）】

市 町 村	社長感謝状	金色有功章	銀色有功章
福 島 市	2	16	14
伊 達 市		2	6
二 本 松 市		6	1
本 宮 市		1	10
郡 山 市		6	18
田 村 市		3	1
白 河 市		6	4

市 町 村	社長感謝状	金色有功章	銀色有功章
会 津 若 松 市		6	17
喜 多 方 市			1
相 馬 市			1
南 相 馬 市		1	4
い わ き 市		6	30
桑 折 町		1	2
大 玉 村		1	1

市 町 村	社長感謝状	金色有功章	銀色有功章
石 川 町			1
浅 川 町		2	
古 殿 町			2
中 島 村			2
矢 吹 町		1	2
棚 倉 町			5
埴 町		5	7
鮫 川 村			1
北 塩 原 村		3	
会 津 坂 下 町			2

市 町 村	社長感謝状	金色有功章	銀色有功章
柳 津 町		1	1
会 津 美 里 町			2
三 島 町			2
金 山 町		2	1
南 会 津 町		1	2
只 見 町			8
飯 館 村			1
檜 葉 町			1
川 内 村		10	

(ク) 献血者 【金色有功章115件（献血100回以上）、銀色有功章163件（献血70回以上）】

市 町 村	金色有功章	銀色有功章
福 島 市	26	27
伊 達 市	5	5
二 本 松 市	5	2
本 宮 市	1	1
郡 山 市	32	40
田 村 市	3	3
須 賀 川 市	3	8
白 河 市	3	7
会 津 若 松 市	2	6
喜 多 方 市		1
南 相 馬 市	1	5
相 馬 市	2	3
い わ き 市	20	29
川 俣 町	1	2
桑 折 町		3
国 見 町	1	3
大 玉 村	1	
三 春 町	2	3

市 町 村	金色有功章	銀色有功章
小 野 町	1	
鏡 石 町	1	1
平 田 村	1	
西 郷 村		2
中 島 村	1	
矢 吹 町		2
棚 倉 町	1	
矢 祭 町	1	
猪 苗 代 町		2
湯 川 村		1
会 津 美 里 町	1	
金 山 町		1
新 地 町		1
双 葉 町		1
檜 葉 町		1
富 岡 町		2
浪 江 町		1

### 3 優良地区・分区の表彰

社資増強運動推進の結果、社資目標額に対し実績額が特に顕著な地区・分区に「日本赤十字社福島県支部社資功労表彰要綱」により表彰を行った。

表彰対象地区・分区（市地区120%以上、150%以上）【5分区】

地区・分区名	社資目標額	社資実績額	達成率
小野町分区	1,580,000円	2,435,000円	154.1%
湯川村分区	438,000円	1,091,000円	249.1%
三島町分区	385,000円	1,334,500円	346.6%
広野町分区	500,000円	1,086,275円	217.3%
川内村分区	344,000円	745,500円	216.7%

### 4 地区有功会の結成状況

有功章受章者を会員とする地区（地方・分区）有功会は、現在15地区で結成されており、赤十字の社旨普及と仲間づくり（社員加入促進）を目的として活動を展開し、赤十字活動の支援組織としての役割を担っている。

（令和3年9月1日現在）

名称	結成	会長名	会員数					事務局
			社資(個)	社資(法)	業務	献血	合計	
1 福島市地区有功会	H6.4.12	小田 長次	20	49	0	0	69	福島市地区
2 郡山市地区有功会	H5.5.11	遠藤 君子	23	37	35	0	95	郡山市地区
3 いわき市地区有功会	H5.5.25	猪狩 正明	32	48	0	0	80	いわき市地区
4 会津若松市地区有功会	S46.5.26	宮森 泰弘	57	11	0	0	68	会津若松市地区
5 喜多方市地区有功会	S49.10.28	武藤 顕夫	90	0	11	25	126	喜多方市地区
6 田村市地区有功会	H18.3.23	今泉 富代	7	1	11	1	20	田村市地区
7 相馬市地区有功会	H13.11.22	猪又 輝雄	2	3	0	0	5	相馬市地区
8 伊達地方有功会	H6.3.24	浅野 榮	8	2	30	2	42	伊達市地区
9 安達地方有功会	S44.2.15	佐藤 興司	29	15	31	0	75	二本松市地区
10 県中地区有功会	H17.6.16	遠藤 臣一	15	4	0	0	19	県中地区
11 会津地区有功会	H18.5.31	鈴木 政英	68	13	105	193	379	会津地区
12 南会津地区有功会	S47.4.5	渡部進一郎	22	5	2	2	31	南会津地区
13 相馬地方有功会	S41.9.3	濱田 幸政	19	11	0	0	30	相双地区
14 双葉地方有功会	H6.4.19	菊地 政子	9	1	0	0	10	相双地区
15 猪苗代町分区有功会	H3.1.29	大坂 恭一	20	0	25	36	81	猪苗代町分区
会津地区にも重複加入している猪苗代町の会員			-19	0	-23	-29	-71	
合計			402	200	227	230	1,059	



## 5 日本赤十字社福島県支部有功会連合会の会議等

名 称	月 日	会 場	参加者(人)
①有功会連合会総会	6月	(いわき市)	文書審議
②紺綬・有功会会長協議会総会	10月7日(木)～8日(金)	(前橋市)	文書審議
③福島県有功会員交流会	11月	(郡山市)	中止
④有功会運営協議会	令和4年3月	(福島県支部)	文書審議

## 6 組織振興課関係会議・研修会等

名 称	月 日	会 場	参加者(人)
①地区区分担当課長・担当国会議	4月22日(木)	福島市	担当課長・担当者45
②全国赤十字大会	5月20日(木)	東京都	中止
③地区・区分新任担当者研修会	5月26日(水)	Web研修	新任担当者29
④第1ブロック振興担当課長会議	6月30日(水)	Web会議	職員3
⑤ファンディングセミナー	9月27日(月)・28日(火)	Web研修	職員2
⑥第1ブロック振興担当者研究会	10月14日(木)	Web会議	職員2
⑦地区長会議	令和4年1月25日(火)	Web会議	地区長・副地区長等12



# 14 会計報告

## ① 令和3年度一般会計歳入歳出決算報告

福島県支部

(円)

収 入		支 出	
科 目(項)	金 額	科 目(項)	金 額
社 資 収 入	288,794,587	災 害 救 護 事 業 費	136,750,610
補助金及び交付金収入	11,248,017	社 会 活 動 費	66,627,882
災害義援金預り金収入	55,637,127	国 際 活 動 費	558,000
繰 入 金 収 入	78,219,236	指定事業地方振興費	3,813,000
貸付金償還金収入	6,660,000	地区分区交付金支出	47,279,299
雑 収 入	5,181,910	社 業 振 興 費	23,619,209
前年度繰越金	84,638,334	基盤整備交付金・補助金支出	2,542,245
		償 還 金 支 出	6,660,000
		積 立 金 支 出	62,169,508
		総 務 管 理 費	36,798,923
		資産取得及び資産管理費	8,900,758
		本 社 送 納 金 支 出	41,907,238
計	530,379,211	計	437,626,672
収入支出差引額	92,752,539		

## ② 令和3年度医療施設特別会計歳入歳出決算報告

福島赤十字病院

収益の収入及び支出

(円)

収 入		支 出	
科 目(項)	金 額	科 目(項)	金 額
医 業 収 益	7,654,434,628	医 業 費 用	8,105,358,024
医 業 外 収 益	1,525,365,861	医 業 外 費 用	33,051,824
医療社会事業収益	1,685,943	医 療 奉 仕 費 用	87,581,205
付 帯 事 業 収 益	41,673,373	付 帯 事 業 費 用	35,841,757
特 別 利 益	77,386	特 別 損 失	6,016,542
		法 人 税 等	△877,243
計	9,223,237,191	計	8,266,972,109
収入支出差引額	956,265,082		

資本的収入及び支出

(円)

収 入		支 出	
科 目(項)	金 額	科 目(項)	金 額
固 定 負 債	618,624,895	固 定 資 産	676,672,927
資 産 売 却 収 入	0	借 入 金 等 償 還	980,059,973
そ の 他 資 本 収 入	1,038,108,005		
計	1,656,732,900	計	1,656,732,900
収入支出差引額	0		

# 15

## 日本赤十字社福島県支部役員名簿

(令和4年6月1日現在)

役職名	氏名	公職名	役職名	氏名	公職名
支部長	内堀 雅雄	福島県知事	評議員	佐藤 一彦	本宮市保健福祉部長
副支部長	井出 孝利	福島県副知事	//	引地 真	国見町長
監査委員	猪狩 正明	福島県法人会連合会長	//	澤村 和明	平田村長
//	横山 克英	会津若松市地区有功会副会長	//	遠藤 栄作	鏡石町長
//	村瀬 久子	元福島県保健福祉部長	//	加藤 幸一	中島村長
本社理事	小櫻 輝	会社役員	//	佐川正一郎	矢祭町長
代議員	小櫻 輝	会社役員	//	薄 友喜	西会津町長
//	遠藤 君子	郡山市地区有功会長	//	杉山 純一	会津美里町長
//	濱田 幸政	相馬地方有功会長	//	渡部進一郎	南会津地区有功会長
//	佐原和佳子	赤十字奉仕団福島県支部委員会委員長	//	濱田 幸政	相馬地方有功会長
//	野崎 洋一	元日赤県支部事務局長	//	鈴木 愛子	広野町赤十字奉仕団委員長
//	飯間香保子	赤十字奉仕団指導講師	//	佐原和佳子	赤十字奉仕団福島県支部委員会委員長
評議員	野田 幸一	福島市健康福祉部長	//	芳見 弘一	福島民報社代表取締役社長
//	高村 劼	福島市地区有功会理事	//	安齋 睦男	福島県社会福祉協議会副会長
//	阿部 隆	福島市地区有功会監事	//	中川 俊哉	福島民友新聞社代表取締役社長・編集主幹
//	飯沼 育子	福島市湯野赤十字奉仕団委員長	//	横山 貴英	青少年赤十字福島県指導者協議会長
//	新井田昭一	会津若松市健康福祉部長	//	平栗 辰也	福島県赤十字安全奉仕団委員長
//	酒井 紹雄	会津地区青少年赤十字賛助奉仕団顧問	支部参与	國分 守	福島県保健福祉部長
//	太田 健三	郡山市社会福祉協議会長	//	郡司 博道	福島県保健福祉部保健福祉総務課長
//	佐久間喜重	郡山市献血推進協会会長	//	新妻 政弘	福島県保健福祉部社会福祉課長
//	松田 信三	郡山市保健福祉部長	//	風間 秀元	福島県保健福祉部業務課長
//	遠藤 君子	郡山市地区有功会長	//	渡辺 仁	福島県危機管理部長
//	強口 暢子	いわき市社会福祉協議会長	//	平野井 徹	福島県危機管理部災害対策課長
//	久保木哲哉	いわき市保健福祉部長	//	大沼 博文	福島県教育委員会教育長
//	矢吹 和義	平地区保健福祉センター所長	//	本田 伸雄	福島県教育庁理事兼政策監
//	遠藤トモ子	いわき方部赤十字奉仕団連絡協議会長	//	渋川 卓也	福島県教育庁社会教育課長
//	伊藤 公一	白河市保健福祉部長	//	石幡 良子	福島県教育庁義務教育課長
//	野崎 秀雄	須賀川市市民福祉部長	//	星 光政	元日赤県支部事務局長
//	齋藤 勇	喜多方市社会福祉協議会長	//	谷口 幸子	元日赤県支部事務局長
//	今野 大	相馬市社会福祉協議会常務理事・事務局長	//	高萩 秀則	元日赤県支部事務局長
//	遠藤 吉次	二本松市社会福祉協議会副会長	//	太田 久雄	元日赤県支部事務局長
//	渡辺 春信	田村市保健福祉部長	//	穴沢 正行	元日赤県支部事務局長
//	村上 勇一	南相馬市社会福祉協議会常務理事兼事務局長	//	野崎 洋一	元日赤県支部事務局長
//	佐藤 直子	伊達市健康福祉部長	//	篠木 敏明	前日赤県支部事務局長

## 令和3年度日本赤十字社福島県支部現勢

(令和4年3月31日現在)

### ■沿革

- 明治22年(1889) 6月…日本赤十字社福島県委員部発足
- 明治27年(1894) 1月…福島県委員部を福島支部と改称
- 昭和18年(1943) 8月…福島療院開設
- 昭和19年(1944) 8月…福島療院を福島赤十字病院と改称
- 昭和27年(1952) 10月…日本赤十字社福島県支部と改称
- 昭和37年(1962) 2月…福島赤十字病院移転新築
- 昭和46年(1971) 4月…日本赤十字社福島県支部移転新築
- 昭和46年(1971) 4月…福島県赤十字血液センター開設
- 昭和56年(1981) 4月…福島県会津赤十字血液センター開設
- 昭和61年(1986) 4月…福島県いわき赤十字血液センター開設
- 昭和63年(1988) 11月…福島県赤十字血液センター郡山駅出張所開設
- 平成10年(1998) 4月…日本赤十字社福島県支部移転新築
- 平成10年(1998) 4月…福島県赤十字血液センター移転新築
- 平成11年(1999) 11月…福島県赤十字血液センター郡山供給出張所開設
- 平成13年(2001) 9月…福島県赤十字血液センター原町供給出張所開設
- 平成18年(2006) 7月…福島県赤十字血液センター郡山駅出張所移転(リニューアル)
- 平成23年(2011) 11月…福島県赤十字血液センター相馬供給出張所移転
- 平成24年(2012) 3月…福島県赤十字血液センター郡山供給出張所移転
- 平成27年(2015) 6月…福島県赤十字血液センター相馬供給出張所移転
- 平成29年(2017) 2月…福島県赤十字血液センター郡山駅前出張所移転
- 平成31年(2019) 1月…福島赤十字病院移転新築開院

■社員……………(個人) 3,006名、(法人) 865法人

■評議員……………39名

■役員 支部長 内堀 雅雄 副支部長 井出 孝利  
 監査委員 3名 参 与 17名

### ■施設及び職員

施設名	所在地	電話番号	職員数
日本赤十字社福島県支部	〒960-1197 福島市永井川字北原田17	024-545-7997	16名
福島赤十字病院	〒960-8530 福島市八島町7-7	024-534-6101	614名
福島県赤十字血液センター	〒960-1198 福島市永井川字北原田17	024-544-2550	60名
福島県赤十字血液センター会津出張所	〒965-0003 会津若松市一箕町大字八幡字門田1-6	0242-24-6650	15名
福島県赤十字血液センターいわき出張所	〒970-8044 いわき市中央台飯野五丁目1-1	0246-29-5624	18名
福島県赤十字血液センター郡山駅前出張所(郡山駅前献血ルーム)	〒963-8002 郡山市駅前一丁目6番10号	024-925-2638	15名
福島県赤十字血液センター郡山供給出張所	〒963-8044 郡山市備前館一丁目132番地	024-927-5199	10名
福島県赤十字血液センター相馬供給出張所	〒976-0152 相馬市粟津字粟津18番地7	0244-35-6066	3名

## ■ 県市町村組織

	合計数	郡	市	町 村
地 区	19	6	13	-
分 区	108	-	62	46
計	127	6	75	46

## ■ 災害救護

救護班・救護員	8班・301名 (令和4年3月31日現在)	
無線局	基地局 2局、移動局 47局	
救援車両	救 急 車	支部1台、病院2台
	医師派遣用自動車	支部1台、病院1台
	災害救援車	支部7台、病院1台
救援物資 (在庫数)	毛布	5,793枚
	バスタオル	2,103枚
	緊急セット	3,400個
	安眠セット	502個
	タオルケット	600枚

## ■ 医療事業

施 設 名	福島赤十字病院		
診 療 科 ・ 病 床 総 数	25科 296床		
患 者 数	入院	84,554名	1日平均 232.0名
	外来	142,372名	1日平均 588.0名

## ■ 血液事業

献 血 者 数		血液製剤供給 (200mL 換算)	
成 分 献 血	23,803名	赤 血 球 製 剤	103,893単位
400mL 献 血	50,784名	血 漿 製 剤	25,613単位
200mL 献 血	1,670名	血 小 板 製 剤	105,385単位
合 計	76,257名	合 計	234,891単位

## ■ 青少年赤十字

幼 稚 園	17校	555人
小 学 校	404校	80,234人
中 学 校	211校	43,373人
高 等 学 校	33校	3,179人
特別支援学校	3校	235人
義務教育学校	6校	1,232人
合 計	674校	128,808人
研究推進指定校	小学校 2校、中学校 2校	

## ■ 赤十字奉仕団

地 域	106団	8,799名
青 年	4団	141名
特 殊	34団	1,228名
合 計	144団	10,168名
指 導 講 師	8名	

## ■ 講習・防災セミナー普及活動

	指 導 員	受講者数
救 急 法	106名	3,426名
水 上 安 全 法	16名	1,092名
幼 児 安 全 法	40名	463名
健康生活支援講習	26名	398名
防 災 セ ミ ナ ー		952名
合 計 (重 複 除 く)	133名	6,331名

## ■ 看護師養成

学 校	学 生 数
日本赤十字秋田看護大学	12名
日本赤十字看護大学	1名
日本赤十字北海道看護大学	1名
合 計	14名

## ■ 国際活動

第一ブロック 支部参加事業	総 額		3,375,000円 (545,000円)
	救急法普及支援事業	ラオス	750,000円 (122,000円)
	青少年赤十字海外支援事業	バヌアツ	2,625,000円 (423,000円)

※ (内は福島県支部の負担金額)



# 赤十字の活動資金にご協力をお願いします。

## 活動資金への協力方法

●地域の自治会や町内会の中でご協力いただく方法。



●最寄りの市町村／社会福祉協議会の赤十字の窓口へ申し込みたいいただく方法。



●日赤の振込用紙でご協力いただく方法。(振込手数料無料)



◎日本赤十字社の創立記念日である5月1日から1ヵ月間は、赤十字運動月間として特に広く社員加入のご案内をしています。

## ●日本赤十字社の表彰

表彰種別	表彰の基準	贈与される表彰品
特別社員	一時又は数次（10年以内）に2万円以上のご協力をいただいた方	特別社員称号贈与通知書、金色バッジ（個人のみ）、陶器製門標（個人のみ）
支部長感謝状	一時又は累計で10万円以上20万円未満のご協力をいただいた方	感謝状
銀色有功章	一時又は累計で20万円以上50万円未満のご協力をいただいた方	銀色有功章（楯）、陶器製門標（大）（個人のみ）、略章
金色有功章	一時又は累計で50万円以上のご協力をいただいた方	個人：金色有功章、章記、略章 法人：金色有功章（楯）、略章

※年間100万円以上のご協力については、上記以外の表彰もございますので、詳しくは当支部までお問合せ下さい。

<b>特別社員</b>	<p>称号贈与通知書</p> <p>金色バッジ</p> <p>陶器製門標</p> <p><b>日赤太郎</b></p>	<b>支部長感謝状</b>	<p>感謝状</p>
<b>銀色有功章</b>	<p>楯</p> <p>略章</p> <p>陶器製門標</p> <p><b>日赤太郎</b></p>	<b>金色有功章</b>	<p>金色有功章（男性用）</p> <p>金色有功章（女性用）</p> <p>章記</p> <p>略章</p>

## ●日本赤十字社への社費や寄付金に適用される税制上の優遇措置（要旨）

納入者区分	区分	関係根拠法令	適用期間	措置の内容
個人	所得税の控除	所得税法第78条第2項第3号	通年	寄付金の全額（ただし、上限は寄付者の年間所得総額の40%まで）から2千円を差し引いた額が、寄付者の年間所得総額から控除されます。
	個人住民税の控除	地方税法第37条の2及び同法施行令第7条の17	通年 (募集金額上限に達した時点で終了)	総理大臣が毎年指定告示する日赤事業に対してなされる寄付金の全額(ただし上限は寄付者の年間所得総額の30%まで)から2千円差し引いた額の10%が寄付者の住民税額から控除されます。(居住地の都道府県支部に寄付の場合のみ適用)
	相続税の非課税	租税特別措置法第70条	通年	寄付した相続財産の価格は、相続人の納めるべき相続税の課税価格に算入されません。
法人	法人税の控除(指定寄付金)	法人税法第37条第3項第2号に基づく財務省告示	4月～9月 (募集金額上限に達した時点で終了)	財務大臣が毎年指定告示する日赤事業に対してなされる寄付金の全額が、法人の寄付金損金算入限度額にかかわらず損金の額に算入されます。
	法人税の控除(特定公益増進法人に対する寄付金)	法人税法第37条第4項	通年	通常の寄付金の損金算入限度額とあわせて、別枠で算出した特定公益増進法人に対する寄付金の損金算入限度額が損金の額に算入されます。



日本赤十字社キャラクター

ハートラちゃん

## 日本赤十字社 福島県支部

〒960-1197 福島市永井川字北原田17

☐ 総務課                      ☎ (024) 545-7997      ☎ (024) 545-7923  
☐ 組織振興課                ☎ (024) 545-7998      ☎ (024) 545-7924  
☐ 事業推進課                ☎ (024) 545-7996      ☎ (024) 545-7923

ホームページ <https://www.jrc.or.jp/chapter/fukushima>